大學新聞

一、十一、廿一日發行
購讀料　一部　三十錢　送料　一部　五錢
廣告料　場所指定　一割增
電話　小石川（85）〇八〇〇、壹〇六番
發行兼印刷人　櫻井恒次

東京都本鄕區本富士町一
發行所
財團法人　大學新聞社
振替東京七七五四番

社説

民主々義統一戰線に就て

果して島國日本の檻の中に生ひ育つたが故であらうか。或ひは又、かの長き鎖國時代が開國にて打破られたるも束の間、再び軍閥暗黑政治に苦しめられたが故であらうか。日本人の氣字低く、日本人の視野極めて狹きに失するを、吾人はつくづくと慨かざるを得ないのである。

その最も端的な事實は、人民戰線結成をめぐつて現はれたのであつた。

×

資本家、官僚の惡業は、財政、通貨に破綻を示し、生產は停滯し、食糧は闇を流れた。そして時々刻々に進展するインフレに苦しみぬいてゐるのは人民大衆に外ならなかつた。文字通り飢餓線をさまよひつゞけてゐる人民大衆に外ならなかつた。然るに奇妙にも、この人民の苦惱をよそに人民の友たるべき、社會黨の空疎な提携問答はあくことなく、共產黨繰返されてゐたのであつた。

一体、社會黨、共產黨は、果して何を目的として存在するものであるか。政權か。代議士の數か。或ひは又、黨員の數か。或は更に又、その何れでもなく、一部幹部の頭を支配する觀念の空虛なる主張にすぎないのであるのか。

社會黨、共產黨、何れも政黨である以上は右に述べた如き馬鹿々々しいものを唯一の目的として存在するものではあるまい。

よもや、兩黨々員は忘れてゐる筈はあるまい。今日、インフレと飢餓に惱む人民大衆が、心から、否、体全体をもつて求めてゐるものは「人民のための政治」である。そして人民のための政治は、人民の手によつて行はれねばならぬと確信してゐるのである。それ故にこそ、人民大衆は、たとひ樣々の不滿はあつても、とにかく、人民大衆の政黨たるべき社會、共產の兩黨に對して切ない希望をかけて來てゐるのである。

×

人民の道義が地に墜ちたと唱へるのは、ブルジョア軍官の宣傳にすぎぬ。誰が正義を厭ひ、利稍に走るブローカーになりたがるものか。誰が赤ん坊を殺すやうな官僚軍閥を希望するものか。人民は道義の興隆を望まんとして望み得ざるが故に、やむなくも闇の中に沈み、そして總に、斯くの如き闇を打開する政治を待望してゐるのである。

然るに何事ぞ、かゝる人民の心の聲に耳を傾けず或ひは天皇制で對立し、或ひは土地問題で說を異にし、或ひは共同鬪爭を拒否し、勢ひの極まるところ、相互に彈劾するに至つては、果して誰が爲の政黨ぞや、と人民の疑惑を招くのも當然であらう。

しかしながら吾人が敢て此處に、日本人の氣字は低く、視野は狹く、と慨く所以のものは、斯くの如き社會、共產兩黨の不一致、人民戰線の結成されざることが、實に、世界の侮りを受くることなきや、といふ一事に關してである。

日本は敗北した。しかしこの敗北は日本を幸福ならしめるための敗北であつた筈である。完敗して漸く日本人民は之を悟つたが、世界は夙に之を知つてゐた。故に敗戰後の日本人民のあらゆる努力は、混亂と無秩序を排して、世界環視の中に「眞の幸福」を實現すべき民主政治の實現以外にはなかつた筈である。ポツダム宣言の意味も亦、此處にあつた。その責務は正に社會、共產の兩黨に課せられてゐるといふも過言ではない。

しかしながら政治はあくまでも現實であり、民主政治は民意の反映であらねばならぬ。そこに「現實的段階」といふことが問題になる。この現實的段階を、國內と國外の兩面をよく觀察した上で、如何に摑むかゞ、政治家の資格を決定し、又外國から見れば日本人の政治能力を測定せしむる基準となるのである。この點、吾人は兩黨に對して疑惑を抱かざるを得なかつたのである。

×

一月十三日、久しく中國に在つた野坂參三氏が歸京した。同氏の歸國を迎へて、日本共產黨中央委員會は野坂氏と共同聲明を發し、天皇制に對する新見解及び最小公約數による「民主々義統一戰線」の結成を提唱した。之は日本共產黨にとつて、確に一の轉換であるとともに、局面の打開を意味した。即ち、數日前まで、あれほど激しく一部社會黨幹部を彈劾した共產黨から、改めて共同鬪爭を「決定的な拒否」を見ることなく提携せしめ、且、社會黨も亦、之に對して十分の余裕をもつて答へることができたのである。

しかしながら、野坂氏の歸國が人民大衆に與へた影響は、實はかかる公的な現象の中にのみあるのではない。同氏が車中で洩らした「民衆に愛される共產黨」の一語こそは、實に重大であつたと考へられる。政黨は本來、民衆のものでなければならぬ。

この言葉は決して共產黨にのみ與へらるべきものではなく、同時に社會黨に對しても與へらるべきものであらう。何故なら現實的に過ぎて、俗論に走るならば、其處には理想が見失はれ、ひいては再び人民の反感を買ふに至るからである。

人民に愛され、人民と共に進み惡しきものを排擊するに急ならずして、むしろより善きものを包括する所に、野坂氏は民主々義統一戰線の結成を提唱した。この提唱は確に人民大衆の心を摑んだ。口にデモクラシイを叫びつゝも、必ずしも民主的ではなく、官僚の弊なる「セクショナリズム」の一例を再び發見しつゝあつた人民に安堵と希望を與へた點に於て、敗戰後、初めての政治的表現がそこにあつたのである。野坂氏の歸國が歷史的なる意義を有すると感ぜらるゝ所以である。

×

所でこのやうに人民に愛せらるる政黨たらんとする共產黨が、新しく提唱する民主主義統一戰線とは如何なるものであるか。それは最大公約數に於ての統一と規定されてゐるのであるが、吾人が茲に如何にしても忘れてならぬことは、外見の最大公約數は、實は最大公約數とは見做し得ないといふ一事である。

云ふまでもなく我國の資本主義社會機構は他に類例を見ざる特殊なものである。この特殊な社會機構から生じた自由主義並に自由主義者とは、世界に通用する自由主義並に自由主義者とは、凡そその趣を異にしてゐる。この重大なる事實を見逃して外見のみの最大公約數を求めるならば今後行はるべき如何なる革命も、すべて反革命に終り、日本は再び世界史の上に消しがたい禍根をのこすこととなるであらう。

吾人は性急に、人民をひきつり廻すが如き政治を希望するものではない。しかしながら日本資本主義の含む半封建的な性格に關しては、この際あくまでも嚴格な再檢討を加へて、妥協すべからざる所は絕對に妥協してはならぬと主張するものである。從つて、積極に於て反動的ならざるや否や、進步、自由、更に協同黨に至るまで、人民は活潑に再批判し、同時に、社會、共產兩黨についても、果してそれが人民の友たり得るや、否やを理性的に判斷せねばならぬのである。

法・文二部制へ

九大近く具申

九大法文學部は大正十三年設立以來法、經、文の三學科に分れ、綜合大學的存在として今日におよんだが、さきに同學部教授會で新學部長に推薦された不破武夫教授（刑法）を中心とする新進教授らによつて同學部を法學部および文學部の二學部制に爲さんとする論が進められ、すでに奧田總長の同意を得てをり近くこれに關する教授會を開いて正式に安倍文相に具申することになつた

法、文の併合制は目下東京、京都兩帝大以外の東北帝大、九州帝大のみで曾て安倍文相が京城帝大法文學部長時代併合制に對し疑問を持つてをり、また不破教授もその助教授として城大に赴任し當時の安倍學部長の意見に對して同感してゐたもので學生の增員に伴つて現在の法文學部教室は當然狹隘となり、授業にも差支へるといふ現實の問題もあり、新學期までに實現すべく猛運動を起すことゝなつた、なほ二學部制になれば現在の教室を法學部にし、文學部を他に移轉するものと思はれる

學生運動新段階へ

民主革命の最先頭に

政治へも積極的に參加

無血の民主革命遂行の機運は澎湃として日本全土にみなぎりつゝあり、この機運を背景として國民の輿望たる學生は日本再建の成否をかけて堅實な社會民主運動に積極的な參加を示しつゝある

即ち野坂參三氏の歸國を機として醸成された共產、社會兩黨を中心とする廣範な民主統一戰線結成は、折から日本再建の方向を決すべき總選擧、目前の飢死線突破の緊急策と相絡んで要請される客觀的條件を成熟せしめつゝあり、かゝる機運を敏感に反映して急進的な學徒の起ち上りが見られることは注目される

學生は敗戰後顯著な三段階を經て來た、即ち一は昨年ポツダム宣言受諾から九月末日までの敗戰に伴ふ虛脫期、十月の解放から生ずるヒステリカルな反射的主觀的な政治運動、民主化運動、十一月から冬休にかけての眞摯な沈潛と自己批判がそれである、かゝる止揚を經た學生はやうやく休暇を終へて學園に歸らんとする、日本再建に優秀な進步的綜力を結集せんとする現實社會の氣息に觸れて學園に歸らんとする、研ぎ澄まされた批判力を楯に本格的な學生運動の新段階に入らんとする、學園民主化を始め今や學生の綜力をあげて解決すべき問題は山積してゐる、而も十五万の有權者を有する學生は總選擧を前にして文部省通牒により今や公然と最も眞摯且つ純眞な政治運動に參加する、以下胎動する學生の統一戰線の姿を見る—

鞏固な學生統一組織へ

國內を風靡しつゝある民主戰線結成への機運に呼應し學徒もその叡智と情熱を傾けて相協力提携し現實に直面してゐる困窮せる學生生活の打開、日本の民主的再建に努力すべく學園の間の强力な橫斷的統一組織の樹立を要請する動きがやうやく活潑化しつゝある

即ちこの機運は既に東京に於ける都下學生聯盟準備會、學生文化聯盟、名古屋地區を中心とした中京學生聯盟、京都を中心とした京都學生聯盟、全京都學生同盟準備委員會、九州に於ける學生聯盟等に於いて見られたところではあるが、或るものはあまりに政黨色に偏して健全な伸長をはばまれ、又一方未だ各學園に自治組織が確立してゐない點も影響してその組織鞏固ならず、又各學園に對する發言權に於いて微弱なものがあつた

かゝる缺點は愼重な自己批判の對象となると共にやうやく釀成された客觀的成立條件と相まつて改組された學友會を始め學園自治組織、研究團体、消費組合等の中心となる進步的優秀學生を網羅して學園の强靱な紐帶に結ばれる橫斷的組織を速かに確立する動きとなつたもので、活潑な研究活動、無氣力反動的學徒への啓蒙、學生消費組合の結成、圖書、學用品の共同購入等に學徒の手で自主的な運營打開策が企圖されつゝあることは注目される

實踐しつゝ構成

全京都學生同盟準備會

昨年十二月八日第一回設立準備會を開いた全京都學生同盟は「實踐シツヽ構成スル」方針の下に正式結成大會を待たずに早くも設立に際し掲げた當面の實踐項目の一たる戰災學生援助運動に乘り出した

即ち、全京都學生同盟準備會有志の名の下に在洛各新聞社の後援を得て戰災學生援助の爲の音樂會を十二月十六日、十八日の兩日同志社明德館で開催純益金のうち二千五百五十九円を海外に父兄を持ち送金の杜絕した廣範の在洛戰災學生援助の爲に在外父兄救出學生同盟に寄附又殘余金二千五百円を一般戰災者救援のために每日新聞社京都支局に歲末義金として寄託した

同會は各學校の休暇の終了を待つて、先づ各學校に純然たる學生の自治機關の設立を促進し、之と併行して緊急實踐項目中可能なるものを實行に移しつゝ遲くも三月中旬には正式に結成を見る豫定

紀元節

年頭の詔書捧讀

東大　南原總長の第一聲

二月十一日の紀元節、東大では從來の型にはまつた式典を排し「年頭の詔書」の捧讀、南原新總長の學徒への第一聲としての告辭が行はれる

即ち當日の式典は午前十時から大講堂で行はれるが君ケ代の奉唱に次いで年頭の詔書を捧讀、文化日本建設への決意を新にした後、從來の慣例を破つて南原總長の告辭があり新總長の學徒への第一聲が紀元節にちなんで端的に披瀝される

なほ式後學生部の肝入りで檢見川農場の收穫物が出席者に分たれ、又映畫會が開かれる

全帝大總長交迭

敗戰後七帝大總長は凡て辭任、新指導者の下に帝大は新國家建設の頭腦として淸新な出發を期することとなつた

即ち內田東大、羽田京大、今北大、熊谷東北大、百武九大、眞島阪大、澁澤名大の七總長はことごとく辭表を提出、既に南原東大、鳥養京大、伊藤北大、田村名大、奧田九大の五總長が新任、阪大では前東工大學長八木秀次博士を推してゐる、東北大では去る廿日總長選擧を行つた

研究團體も積極參加

人民戰線結成の大いなる動きの中に研究陣營も漸く活潑化し研究會研究所の設立が各所で進められてをり、更にこれら研究機關は相互に連絡を以て研究統一戰線を布かんとする氣運が起りつゝある

即ち既に新に設立をみた研究所としては社會科學研究所、ソヴイエト研究所日本經濟機構研究所、中國研究所、日本社會運動研究所、勞働條件研究所、日本生活研究所等があり又研究會としては主なものに憲政研究會、歷史學研究會、科學思想研究會、中國問題研究會等があり、綜合的な研究並に啓蒙團体として民主主義科學者協會、靑年文化會議、政治教育協會、民主國策協議會等がある、これらは既に準備期を終り發會、本格的な活動を開始してゐる

又一方文化人團体たる日本ジヤーナリスト聯盟、自由懇話會、民主主義美術家同盟、新日本文學者會、日本文化人聯盟等十五團体も率先民主統一戰線に參加すべく積極的運動を取りつゝあり、これら文化人、研究者が夫々人民戰線に積極的に參加せんとしつゝある事は注目されると共にその運動は甚だ期待すべきものがある

一方學生側の自主的研究團体も續々と生れつゝあるが東大では社會科學研究會、社會哲學研究會、米國研究會、社會研究會等最も活潑なる研究活動を行つてをり慶大の日本資本主義研究會、マルクス研究會を始めとする諸研究會東商大の社會科學研究會、京大の社會科學研究會等は夫々讀書會研究座談會、實地調査がすゝめられてをり何等かの橫斷的連繫を取り相互の研究活動を活潑ならしめんとする氣運がある

更にこれらに共通なものとしては勤勞動員、軍隊生活で得た現實への認識は生きた生々しい現實を眞に把握し、合理的批判精神によつてこれを解決實踐活動に移行せんとする現實への旺盛なる意欲と實踐性が見られ日本の民主革命遂行の眞摯な一翼たらんとする氣運が見られ始め徒らなるお祭り的社會運動を排除し過去の學生運動の大衆から遊離した面を淸算し人民としての自覺に生き人民と共に步まんとする共通性がある事は特に注目すべき點がある

これらは既に東大社會科學研究會の浮浪者の實態調査、農村生活者の實態調査、自作農の實態調査、東大社會研究會の「農地調整法」に對する農民側の輿論調査、天皇制調査、東大セツルメントの埼玉縣下農民組合への協力、東工大の天皇制輿論調査、慶大生の日本經濟機構城南工場勞働條件調査等となつて現れてゐる

これらの點で學生研究團体の有機的な連繫人民統一戰線への積極的參加は一層の科學性を附與するものとして甚だ期待すべきものがある

☆…學友會誌を發行—熊本醫大

熊本醫大學友會では學友會の新發足を期し一月一日付で學友會雜誌を發行、學友會關係の記事並に論說、評論、詩歌、隨想等を收錄した、これは新聞紙大四頁で今後も紙の配給が許される限り隔月刊ないし月刊で發行を續ける筈

學生も民主統一戰線へ

學生は語る

今後の學生の方向について東大經井出洋君は起ち上らんとする學徒を代表して、左の如く語る—

△…日本の學生たちは自由のために鬪つた輝かしい諸先輩を持ち、名譽ある傳統の上に立つてゐる、新人會、建設者同盟等進步的學生グループは帝國主義軍國主義と鬪ひ、勤勞大衆の政治的向上と幸福のために働いて來た、森戶事件、京大事件、瀧川事件、河合事件に於て、學生は封建的抑壓に抗し、學問の自由と眞理のために立ち上つた事は世の人のあまねく知るところである、彈壓も戰爭もこのよき傳統を根絕させることは出來なかつた、アメリカの評論家アンドリユー・ロスもこの事實を認めて、日本の學生は、勤勞階級とともに民主々義のよき擔ひ手たる事が出來る、といつてゐる

△…日本の學生たちは、果してこの傳統を、世界の人民の期待を裏切らなかつた、敗戰後、軍國主義を排擊し、文部省の刷新をも要求したのは高等學校の學生たちであつた、學生は學園の民主化を叫び、戰爭を煽動し、それに協力した教授たちの退陣を要求し、明るい學園を再建しようと努力してゐる、學生たちのもり上つて來る批判的精神におどろいた教授たちは學校を休みにしてしまつた、慶應や工大の學生たちは、自分たちで進步的な先生をつれて來て、自由大學や各種の講座をひらいて、戰爭中聞く事の出來なかつた自由な講義を受けてゐるのである、學生生活をつゞける事を困難にしてゐる住宅や食糧難に對しては、消費組合や協同組合が生れつゝある

△…だが、この日本人民全体の直面してゐる危機にあたつて、學生だけが特權的に自分の生活を改善する事は出來ないし、又許されてもゐない、學生は今や象牙の塔に閉ぢこもつて傍觀してはいられなくなつた、民主主義を徹底し、殘存封建的專制的權力を打破して始めて日本の未來も發展もある、支配階級との鬪爭を通じて勞働者や農民は次第に結集しつゝあり、この勤勞大衆を推進力として民主主義的統一戰線は出來上らうとしてゐる

△…學生もこの線に沿つて動き始めた、自由大學に集つた學生たちは、產業勞働調査所や日本經濟機構研究所に加はつて、城南地區を中心とする勞働條件や勞働者階級の家計調査を始め更に各大學の學生たちに共同研究をよびかけてゐる、この工場調査は、勞働者の賃銀値上の要求の根據ともなり、最低賃銀制の確立にも寄與するもので、人民の生活の安定と向上のためにはなくてはならぬものである、東大セツトルメントは埼玉の農村に再建され、學生たちは、農民の組織を手傳ひ、文化啓蒙運動を行ふとともに、都市の勞働組合と手を結んで、その物資を交流し、危機を克服するための人民協議會へ進まうとしてゐる、千葉醫大の消費組合もこれと同じく、京成勞働組合や縣下の農民委員會とむすんで人民協議會へ參加してゐることを忘れてはならない

△…學生の政治運動かつてたるべしとの文部省の通牒はこの動きをさらに民主戰線へおし進めるであらう、單なる選擧運動のための政治屋に利用されて、學生代議士を夢みる學生は歷史の脫落者である

日本學生運動史

思想反省に出發

大正時代篇（上）

松浦健三

大正時代における學生社會運動の起りは、第一次歐洲大戰の影響を受けた深刻な思想的反省にある。米國大統領ウイルソンが、ドイツの軍國主義を打倒し、世界のデモクラシーのために戰ふといひ、米國の參戰と同じ大正六年にロシヤ革命が起り、七年にはドイツにも敗戰と同時に革命が行はれた。その前後から勞働爭議の頻發が傳へられ、日本の社會思想に大きな動搖が起つた。大學の學生は帝制ドイツの思想を基調とした知識を學んで疑ふことを知らなかつたのに對し、强い反省の眼を向けざるを得なくなつたのである。（寫眞は往時の學生デモ）

三十年間も同じノートで講義をした教授があつても、學生はたゞ孜々として、これを筆記し暗記するのみであつたのが、この內から試驗の答案にも、暗記した知識ばかりでなく、參考書と照し合せたり、自分で考へたものが現はれるやうになつたといふ。

東大法科の吉野作造教授が、中央公論にデモクラシーの論陣を張り、また思想の動搖は哲學的論文を諸雜誌に現はれしめ、トルストイが讀まれ、宗教問題に關心がそゝがれた。普通選擧運動が起り、大正七年夏には米騷動が勃發した。友愛會が日本勞働總同盟となつたのは同八年である。大正七年十一月吉野教授を誹謗してゐた頭山滿、內田良平らの浪人會一派と吉野教授との立會演說會が神田の南明俱樂部に開かれた。そのとき論鋒論破した吉野教授の演說を聞いて、集つた都下各大學や一高の學生が非常な感銘をうけ、學生の思想運動を展開する機緣となつてゐる。

東大法科辯論部の赤松克麿、宮崎龍介、石渡春雄らが吉野教授の宅に集つて「普選研究會」をやつてゐたが、これに既に卒業してゐた麻生久らが加はつて、大正七年十二月に新人會が生れた。八年二月に早稻田に民人同盟會が生れて高津正道、和田巖、淺沼稻次郞、稻村隆一、三宅正一らがあつた。これより先き京都には京大同志社らの學生で勞働會がつくられ、水谷長三郞、小林輝次らがゐた。慶應出身の野坂參三は大正五年以來友愛會の書記をしてをり滿鐵の佐野學ものち新人會に入りその後早稻田の講壇に立つた。

大正八年二月都下各大學學生有志で普通選擧大會を開いたとき、かけつけた本所押上の永峰セルロイド工場に働く靑年渡邊政之輔も新人會に入會するにいたつたやうなこともある。民人同盟會は八年に分裂して建設者同盟が生れ、新人會は幾多の變遷を經て發展した。その初期の會員には三輪壽壯、嘉治隆一、新明正道、林要、平貞藏、河村又介、蠟山政道、波多野鼎、村上堯、細野三千雄、佐々弘雄、石濱知行、千葉雄次郞、河野密、住谷悅治、小岩井淨、細迫兼光、來間恭、風早八十二らの名があつた。（筆者は朝日新聞社政經部勤務）

安倍文相に呈す

道家忠道

先生が文部大臣になられたと聞いて、日本もやつと文化國の仲間入りができるのかなと思ひました。日本では、經濟學者が大藏大臣になつたり、教育家や哲學者が文部大臣になつたりするのが、今なほセンセイショナルな事件であるやうに見えます。しかしこれは當り前のことではないのでせう。それはつまり學問が、理性が、政治を支配することです。その當り前がやつと實現したことを、日本のために、心から喜びます。

しかしまだ本當に喜ぶのは早いのかもしれません。世間は成程こぞつて、先生の登場を歡迎してゐます。それは大部分先生のお人柄、毅然として節を屈せられなかつた賴もしさやまたどこか親しみのある若々しさ、時折若い高等學生と一緒にデカンショを怒鳴られるといふ傳說（?）などに負ふのでせう。また凡そ官僚とは緣の遠い、言はば「素人」といつた感じの新鮮味によるかもしれません。この先生の人氣の中には、多分に、新しいものに對する好奇心、何かあつと言はせるスタンド・プレイへの期待が雜つてゐないとは言へません。

こんなのは論外としても、人々は先生の理想主義的な、直情徑行の改革の熱情に、大きな期待を寄せてゐます。しかし先生が百も御承知のやうに、今までの政治では、このやうな期待がどんな結果に終るかは、想像に難くありません。そのやうな場合は、ただ先生のためばかりでなく、折角正常の道に一步を踏み出しかけた日本の教育のために取かへしがつかない損失となるでせう。

先生は今度は出られないだらうといふ豫想をしたものもあります。先生が途中で厭氣がさして投出されやしないか、と危惧するのも私一人ではないと思ひます。それだけに、今度先生が敢然と引受けられたのは、並並ならぬ御決心だと想像します。どうしても今やらなくてはならぬといふお氣持だと思ひます。どうかその御決心を、ねばり强く貫いて戴きたいと思ひます。

◇……◇

先生の登場で思ひ出すのは、十九世紀初頭のドイツの人文主義教育を打樹てたフンボルトの仕事です。最高の叡知が直接に教育の具体的制度に働いたあの燦然たる事業を日本にも再現したいものです。しかし先生が教育の理想を思ふ存分實現なさる前に、まだ日本には餘りに低調な、お話にならぬやうな狀態があります。それは一人や二人の力ではどうにもならぬほど頑迷度し難いものです。又一年や二年で急に改まることでもありません。先生の第一のお仕事はまづこの地ならしではないかと思ひます。先生の理想や正論が、文部省の官僚の中を通つてゐる間に、何時しか生氣を失ひ、骨拔きになり、一片の生硬な訓令として立消えとなつてしまはないやうな地盤をこしらへることです。

この爲に先づ、文部省を本來の仕事に戾らせねばならぬと思ひます。この幾年間、先生も被害者の一人と思ひますが、文部省は、何もかも自分でやらうとしました。或はやるやうに見せようとしました。その結果は誰でも知つてゐるやうに、教育に何事をもさせない、といふことだけに終つたのです。訓令、要綱、通牒の濫發。すべては軍部への申譯け、世の中への諒解。皮を切らせ、肉を切らせ、遂に殆ど骨を切らせてしまひました。これは一々申上げる必要もないと思ひます。

◇……◇

要するに卑屈な無定見、形式だけを整へるごまかし、弱いものと見ては嵩にかかる權力主義、教師の中にも生徒の中にもこのやうな空氣のみちてゐるこの慘憺たる有樣です。これではいくつマツクアーサー指令がでても、どんな高遠な改革案をもつて來ても、單なる外面粉飾、迎合、懸聲に終るばかりです。これは過去の日本社會全体の姿とも言へますが、手近かな處は、文部省の官僚主義が國民學校の教員室までしみこんだ結果です。

文部省は教育をする所ではありません。教育を指導、監督する所でもないと思ひます。教育の世話をし、便宜をはかる所です。從つてまづ思ひ切つて、この點方向轉換をする必要があります。文部省の權限をうんと切棄てることです。何を教へ、如何に教へるか、學科課程、時間割をはじめ、學校制度そのものも、大きな枠は別にして、現場の人間に任せたらいゝと思ひます。一時は混亂があるかもしれませんが、銘々が智慧をしぼり、一種の自然淘汰で、やがて時代に應じた適當な秩序ができることと思ひます。また文部省はもはや、思想の指導者をもつて任ずる必要はないと思ひます。天皇制の問題などについて、方々の顏色をうかがひつつあやふやな訓令など出す苦心は御無用です。

問題は、よい人たちをどんどん教育界に入れることにあります。安んじて任せられる人間さへあれば、文部省は、親心だの老婆心だのをやたらに振りまはす必要はありません。よい人を吸收するには何と言つても、待遇問題です。皮肉なしに、今までの日本の教育界には、淸貧といふ煉獄の故に、却つて立派な人が集つたのかもしれません。確かに外の社會よりは、淸らかな精神が、今なほ殘つてゐると思ひます。心から敬意を表する國民學校の先生、飢をしのび、否飢に倒れても學に精進する高等學校の先生がゐます。

しかし食へないために教職を離れ、食はんがために、學に捧げる時間をさいて、副業に奔走せざるを得ないことも、衆知の事實です。文部省の第一の、唯一の仕事は、教育のために金をできるだけ集めることだと言つても差支へないと思ひます。お金を集めることは、先生にはどうも苦手らしいですが、これはどうしても一番大切な仕事ではないかと想ひます。夏目さんの言はれた、無い腕を出して、一つ御奮鬪を願ひます。

軍閥獨裁に代つて日本はこれからは、教育獨裁であつてよいと思ひます。今までの軍事費の比率は、教育費が受ついでよいのでせう。先生の存在は、日本の政治の中で、この實狀にふさはしい比重をもつべきだと思ひます。

外に向つて强力な、內に向つて謙虛な文部省の創造、これが差當つての第一步ではないでせうか。

本來は先生に期待すべきことは、この先であります。本當は叡知にもとづいた、教育の理想主義的建設。しかし今の一步は、どうしても踏み出さねばならぬ一步です。

敢て泥沼の排水工事、この厄介な不愉快な仕事をお願ひします。どうかうんざりして投出してしまはれぬ樣、何よりもこのことをお願ひします。（筆者は靜高教授）

學園と學問の復興

遠大な理想的・世界的大學を

抱負語る南原東大總長

任期半ばにして退陣した內田前總長のあとを受けて日本再建、文化國家建設の重責を擔ふ東大十五代目の主となつた南原總長は去月廿三日總長室で左の如く大學今後の刷新改善の方針を語り先づ學園と學問の復興を計り足下の具体問題から着々解決實施し遠大な理想的、世界的大學の建設を期する旨言明し注目された、以下は南原新總長の談である—國家全体に亙り戰爭から蒙つた損失は都市と國土の荒廢にも勝つて精神と文化の荒廢でありこの狀態にて推移せんか現下の問題たる食糧飢饉より寧ろ眞理の飢饉が憂へられるであらう

これは何を措いても學園と學問の復興が國家的に重大であり、本學は幸にして大なる戰災を蒙らなかつたが殊に損壞せる水道ガス等の設備の急速なる復舊を計り殆ど停止狀態にある研究機關を回復せねばならぬ、それと同時に學生を含めて研究者殊に教職員の待遇並に生活の安定と保證が急務である、その爲には一方政府の思ひ切つた施策が要請されると共に大學自らの互助、自給体制の確立に努力すべきであると思ふ

殊にこの問題は各部局殊に學生部關係諸教授の協力を得て着手進行しつゝある、又差し當り各學部に於いて職員の家庭生活を目標に夫々消費組合が組織されつゝある、近くその統合と、殊に學生一般を對象として全學に亙る消費組合が末弘教授等法・經學部教授を中心として計畫されつゝある、大學はこれと一体となり學生生活の厚生問題に努力しつゝある

併し單に復興と安定では足らぬ、敗戰を一新起原として祖國再建といふ大業の前に新日本文化の創造と文化國家建設といふ使命が大學に課せられてゐる、このためにこの際學問研究の自由と大學の自治を確立すると共に大學教育並に研究の刷新ないし振興を計ることが大學最大の責務である

その爲に各學部毎に學科課程の改革が協議せられつゝあり、あるものは近く新學年に實施せんとするの段階にある、又全學に亙るものは學部長會議並に評議會等において夫々研究審議をとげつゝあり、その際綜合大學の趣旨に鑑み新に綜合的研究の方法が問題とせられるであらう、又大學が最高學府としての任務を堅持すると共に大學の解放が問題とせらるべくこの點に關し昨年法學部によつて先づ企劃實施された大學普及講座が今後全學的に擴充實施されるであらう

同時に重要な事は全學の學生が大學の自由の眞義を理解し高き道義心と透徹たる自由研究心を養ひ學問に教養に生活に自主的な協同努力を重ね明朗なる學園を作ると共に將來社會の各層にわたり新日本建設の指導者たるの修養をつむ事が望ましい、なほ學生の大部分は今回選擧權を持つにいたつたについては文科自然科學のいづれを問はず政治的關心と公民教養を養ひ批判的科學的精神を以て敗戰日本の現實を認識すると共に過去の歷史と日本民族永遠の理念を思ひ、我國體に融合調和する民主性の確立に寄與せんことを望んで止まない

かくして全學師弟相攜へて大學は苦難の中からかへつて可能な新しい精神の生誕、又新しい科學的眞理の發見によつて文化日本としての世界史的使命を見出し人類文化に寄與することを目途しなければならぬさうして從來戰以來各分野に見られる虛脫狀態から少くも大學及び大學人は率先起ち上らねばならぬ

なほ近く許される範圍內において聯合國より來朝の教授、學者學徒と本學との間の文化交驩の計畫が當てらるべく、將來この方面に於いて國際文化の交流を盛にし新しい平和日本建設實現の曉には少くも我我の大學は日本國民文化の中心として世界的大學を建設するを理想として出發したいと思ふ

それにつきあたかも戰災復興に關する政府並に都の都市計畫案と平行して本學を中心とし上野公園及び小石川植物園に亙る學園文化地區を設計し、英米の大學制度を參考とし學生の寄宿舍及び教授住宅等を綠地の間に配設して理想的學園を實現する事が出來たらと思ふ

これ等のことは敗戰國日本として凡てが一朝にして解決し得るとは思はず、殊に最後の案は永い歲月を要すべき大學の理想であるが平和日本、文化日本の建設といふ最高理念から一方に於ては政府の大英斷と國民の支持が要望されると共に今こそ大學の輿論を起し全學の叡智と機能を結集して大いに計畫し、その實現し得るものについては協同一致して着々實行して行きたいと思ふ、私は大學の學徒として全力を傾けて事に當りたいと思ふ【寫眞は南原東大總長】

同學會改組案成る

京大　活躍した協議委員會

京大では同學友會改組の爲の新任學生協議委員の手で改組案の成文化を終て鳥養總長の內諾を得た同改組案は旧規則に依り今月中に總長學部長及びその他の同學會關係教授、全協議委員出席の下に協議會を開き承認を得、直ちに實行に移すはずである

同學會改組案成立の經過を見ると新任協議委員が昨年十一月互選されてから學生側の改組案の骨子につき光田學生課長、井上學生主事と屢々會談、意見の對立を來したが、十二月五日、木村學生部長を中心に協議委員會を開き學生側の改組案を論議し、學生側の根本意見たる、㈠同學會の運營は原則として學生委員の手で行ひ、特別の場合顧問會の協力援助を受ける㈡學生取締規則の廢止、及びこれに伴ひ學內治安を同學會學生委員により自律させること、㈢同學會を學生の意思表示機關として學園の自治達成の一翼たらしめる㈣同學會の監督は總長が之に直接行ひ責任上止むを得ざる事項以外、委任の形式に依り學生委員の自由を認める、以上の諸點に關し木村部長の內諾を得、或に關してほゞ意見の一致を見た、その後木村學生部長の溫情ある斡旋により、前述の學生側改組案に學生課長學生主事も同意、總長の內諾を得て十二月九日以後協議委員は改組案の成文化に着手したものである

同案に依る同學會の構想を見るに常任委員會（學生、週一回）顧問會（教、助教授）を以て本部を形成、中核となり一般事務を處理する、常任委員會は各學部選出の協議委員會の委任に基くもので協議委員會は月一回開催される、常任委員長は毎年二回學生大會を召集して同會運營並に經理の全般の報告をなすと共に輿論を聽取する

同學會の各部は次の通りである—總務、輿論調査、連絡、文化運動、生活（又は厚生）學術研究、新聞—なほ運動、文化の兩部は更に班に分れてゐる

その他同會の事業としては生活懇談會に於る學徒の希望に基き內外圖書の斡旋、圖書交換會の實施、學徒相談所（學生生活の諸問題）の開設、學徒同內職の斡旋等が行はれる

なほ「學徒の家」は杉並區阿佐谷四の九四八に設けられ十四、五人の會合が可能で圖書、雜誌蓄音機等が備付けられてゐる

又レコードコンサートの開催、學校自給農園の斡旋運營のほか休暇中に行はれた學徒の旅山行會の斡旋は昨年末現在數で六百名に達し增產戰士への首途の詩、激勵慰問文、表彰狀等が送られた

增版希望圖書の調査に着手

勤勞學徒援護會

勤勞學徒援護會では旧臘八日の學生生活懇談會（都下大學、高專學徒有志及び文部省、農林省、東京都等の學生生活に密接な關係を有する當事者よりなる）に引つゞき食糧、宿舍、協同組合等の問題に關し分科會を設置、具体的解決方策を考究すべく次の懇談會合を行つた

殊に旧臘來圖書入手難打開について學生側の自主的關心と關係者側の理解ある態度が注目され

去る十八日には圖書入手難打開の第一着手として學徒增版希望圖書の調査を行ふことになり、都下大學高專學徒七千を對象として二月中に調査を完了する

岩波書店刊

御注文は總て最寄りの書店へ願ひます直接御送金下さいましても送本通信資材の缺乏の爲遺憾乍ら何れも御返金致して居ります御諒承下さい

西田幾多郞著　哲學論文集　第六　A5判一九二頁　定價一二・〇〇
南原繁著　增補　國家と宗教　A5判三二八頁　定價一六・〇〇
大內兵衞著　財政學大綱　上　A5判一九六頁　定價〇九・五〇
山田勝次郞著　米と繭の經濟構造　A5判一二四頁　定價〇七・〇〇
瀧谷利三著　增訂　化學反應　下　A5判一九〇頁　定價一四・〇〇
千葉敬一著　第五フランス通信　B6判二二二頁　定價〇六・五〇

生活社　神田駿河臺一ノ五

日本叢書　價各八〇錢　送料十錢

寸步抄　山田孝雄
山嶺の氣　堀口大學
赤門懷古　入澤達吉
山と世界　室生犀星
浮世繪と時代　高橋誠一郞
ぎりしあの小說　吳茂一
菅原道眞　上司小劍
抒情詩抄　西條八十
讀書について　谷川徹三
日本の勞働運動　平野義太郞
明治の面影　大類伸
すまひの傳統　岸田日出刀
日本文化の發展のかたちについて　木村素衞
隨山莊記　野上彌生子

日本評論社近刊

淸野謙次著　日本民族生成論　A5上製三六〇頁　價三五・〇〇
鈴木梅太郞著　ホルモン　A5並製三六〇頁　價一八・〇〇
近藤忠義編　日本文學入門　B6並製二五〇頁　價一五・〇〇
石山徹郞著　現代短歌　B6並製二六〇頁　價八・〇〇
重友毅著　秋成　B6並製二八〇頁　價八・〇〇
志田義秀著　芭蕉展望　A5上製三〇〇頁　價一〇・〇〇

民主革命途上の天皇制
米ソ支英の輿論に見る
——世界史的轉換の岐路に立つ天皇制——

具島兼三郎

一

終戰後における顯著なる傾向の一つとして注目すべきものは世界各地における君主制の凋落である。ファッシズムと結托して人民を無謀な侵略戰爭に驅り立てた國々の君主制が問題になるのは至極當然のこととして、實際にはファッシズムに協力しなくともファッシズムに對する抵抗を有效に組織し得なかつたと云ふ理由だけでその存在の價値を疑はれてゐる君主制さへある。既にユーゴースラヴイヤとギリシヤ、ハンガリーにおいては共和制が宣告されたしアルバニア、ブルガリア、ルーマニア、ベルギー、イタリーにおいては君主制はその根幹を搖ぶられつゝある。今日君主制が比較的安泰を保つてゐるのは英國、デンマーク、スカンヂナヴイヤ諸國位ひのものであつて君主制凋落の風潮は今や全世界を蔽はうとしてゐる。何がかくの如き風潮をつくり出したのであらうか？

それは今次大戰の厳しい經驗を通じて人民の自由と平和を守るものは結局人民自身であると云ふことが明かになつたからである。ヒットラーやムッソリーニの侵略軍に對して君主制は、一體何をなし得たか？ハンガリー、ルーマニア、ブルガリア、イタリーにおいては、君主制はファッショ侵略軍に叩頭して忽ちその協力者になつたし、ベルギーにおいては國王は聯合國にとつて最も危險な時期に侵略軍への抵抗を放棄した。又ユーゴースラヴイヤ、ギリシヤ、アルバニアにおいては國王はファッショ侵略軍のために家を焼かれ奪略され、命を奪はれてゐる國民を置き去りにして獨り外國に亡命した。

これらの君主達がロンドンのホテルで從者達と撞球に興じたり、ジネーヴ湖畔の風景を樂しんでたりしてゐる時、故國では何が起つてゐたか？人民達は自分等の手でゲリラを組織し、侵略軍の野獸共と明日をも知れぬ流血闘爭を續けてゐたのである。ユーゴーのチトー然り、アルバニアのホッヂヤ然り。

かくて侵略軍が粉碎され、故國の秩序が回復されたとき、再び王位につくため亡命先からノコノコ御輿をあげやうとしてゐた國王達に對して、人民達が一寸待つたと云ひ出したのは、無理もない。ファッシズムに對して抵抗し得ないやうな國王が何になるか？人民の自由と平和を守り得ないやうな國王が何になるか？我々はもはや國王を必要としない、君主制は人權伸張の障碍物にすぎないと云ふのが、即ち人民達の聲であつた。

世界史はかくの如く今や重大な轉換を遂げやうとしてゐる。我國における天皇制の問題も亦かゝる世界史的轉換過程の一齣として現はれて來たものであつて、戰爭で敗けた我國だけに偶々起つた現象ではない。ところが我國の場合には、天皇制はファッシズムに對して闘爭するどころか、却つて逆にファッシズムの先頭に立つて人民の自由を抑壓し、外國の領土を侵略しておきながら、しかもなほ終戰後の今日人民に對して居据はりを強要しつゝある。そして人民も亦一部の先覺者達を除けば、この點に關して大して怪しんでゐないやうに思はれる。

歐洲でファシズムに對して效果的、精力的な抵抗を組織し得なかつたと云ふ理由で君主制存續の價値が疑はれてゐるときに、日本では自らファシズムや軍國主義の先頭に立つて世界の平和と自由とを侵害した天皇制が、敗戰後の今日なほ厳然とそのまゝ居据らうとしてゐるのである。しかも、これに關する論議は終戰後五ケ月にして漸く本格的な一歩を踏み出したにすぎない。この悠長さは一體何を意味するものであらうか？

二

國體護持を主張する人々は、この事實の中に天皇制擁護の重大な理由を發見せんとしてゐる。敗戰の今日なほ日本人の多くが天皇制に對して綿々たる愛着を示してゐる事實こそ、日本にとつて天皇制の不可缺なることを證明するものであると……。しかし、果してさうであらうか？私はさう思はない。それは永い間の壓制によつて曖昧にされた人民の政治意識の低さを證明する以外の何ものでもないのである。私はさう云ふことを云ふ輩に聞き度い。一體人民が物の眞相を聞き得るやうになつて今日まで何日經つたか？と。

昨年十二月の初め頃まで天皇制に關する論議は依然不敬罪によつて禁されてゐた。天皇制に關する論議らしい論議が開かれるやうになつたのは漸く今年に入つてからのことである。それでもこの短期間に人民の考へ方は非常に變つて來た。天皇制の社會經濟的基礎の究明が進むにつれて、半封建的土地所有と獨占資本との兩頭の馬に跨つてゐる絶對主義としての天皇制の姿が浮彫にされ、日本歴史の再檢討によつて現在我々の問題にしてゐる天皇制が僅々七十年そこそこの歴史しか持たないものであると云ふ點も明かにされた。又政治運動の分野では獨裁的政治機構としての天皇制と宗教的信仰の中心としての皇室との間に畫然たる一線が引かれたことによつて、民主闘爭の人民に對する影響力は一段と擴大されやうとしてゐる。この分で行けばこゝ數年を出ずして人民の考へ方は急速に變るであらう。

從つて人民の現在の遅れた政治意識を基礎にして天皇制の存續を理由付けやうとするが如きは、胸に一物ある輩の考へることであつて眞に自由を愛し、平和を希ふもののとるべき態度ではない。

天皇制の問題はデモクラシーに對する日本國民の反應度を知るためのリトマス試驗紙みたいなものである。試驗官は今學生がどんな答案を出すかを注意深く見守つてゐる。いゝ答案を出せば學生の能力充分と見て平和條約も締結しやうし國際聯合（UNO）への加入も許すであらう。しかし答案の出來が惡ければ占領期間を延長して幾度でも試驗のやりなほしをするのに相違ない。頭のいゝ學生は試驗官の問題提出の意圖を知つてゐるので答案の提出に當つても問題の急所を外さない。これに反して頭の惡い學生となると、試驗官の意圖が分らないから、自分だけいいことを書いた積りでも、見る人が見るとスッカリ問題の急所を外してゐる。

日本の立場も試驗を受けてゐるやうなものである日本の學生本がいゝ答案を出すためには試驗官の意圖が奈邊にあるかを正しく知るべきである。井の中の蛙のやうに日本の内部だけを見てゐないで廣く目を國外に轉じ、世界の輿論に傾聽し、世界の進運に逆行しないやうに心掛くべきである。

ところで天皇制をめぐる世界の輿論はいかなる動きを示してゐるか？先づアメリカについてみやう。アメリカでは日本に對する勝利が、もはや誰の眼にも明かになつた頃から、終戰後の日本管理方式に關する論爭が活潑に展開されたが、天皇制の問題はこゝでも論爭の中心となり、輿論は天皇制の存續と廢止とをめぐつて大きく二つに分れた。

存續論を主張する人々は「ジヤパン、クラウツ」と呼ばれ、永年日本にゐたことのある外交官や宣教師、新聞記者などから成り、財界方面に多くの支持者をもつたのに對し、廢止論を主張する人々は「チヤイナ、クラウツ」と呼ばれ、支那通の外交官、評論家、雜誌記者などから成り、勞働團體や、小市民層の間に澤山の支持者をもつた。しかし、こゝで注目すべきことは兩者の立論の相違が、アメリカの對ソ政策と緊密な關聯をもつてゐると云ふ一事である。將來アメリカがソ聯に對して日本と共通の利害に立つ日のあることを豫想して、さういふ視角から日本管理の方式を考へるのと、ソ聯との絶對友好を前提として日本管理の方式を考へるのとでは、同じ日本管理でもその方式が非常に違つてゐる。就中天皇制の問題になると、その前提如何によつてこれに對する態度が根本的に違つてくるのである。

ソ聯との戰爭を前提とすれば天皇制を温存してこれを利用する方式に傾き易いしソ聯との平和を前提とすれば天皇制を廢止して共和制を實現する方式に傾き易い。

天皇制を温存しようとすれば天皇制の支柱を破壞するわけには行かない。戰爭の直接責任者たる軍閥の解體や軍隊の武装解除、軍需工業の禁止は仕方がないとしても、財閥や地主、官僚までも解體して了つたら、天皇制温存の意味がなくなつて了ふ。だから財閥の解體や、地主を弱める農地改革、官僚の責任追及も大抵のところで止めておかねばならなくなる。これに反して天皇制を廢止するつもりなら天皇制の支柱となつてゐる軍閥は勿論、財閥の解體、地主の弱化を目指す思ひ切つた農地改革、官僚の徹底的な責任追及が必要となる。

終戰前「ジヤパン・クラウツ」の人々を中心として行はれた、條件附和平論は、その中に多分に對ソ警戒の含みをもち、かゝる視角から天皇制の温存利用が唱へられたが、これに對し「チヤイナ・クラウツ」の人々は聯合國の一員であるソ聯との戰爭を前提として日本管理の方式も考へることの不可を強調し、かゝる視角から天皇制の問題をとりあげた。フランク・セントの「日本の拔け道」は前者の代表的なものであり、オーウエン・ラチモアの「アジヤの解決」やアンドリユー・ロス「日本のヂレンマ」、ウイリヤム・ジヨンストンの「日本の將來」などは後者の代表的なものであると云ふことが出來る。

終戰前まではこの二つの潮流の中「ジヤパン・クラウツ」の主張の方がグルーを通じて強く國務省内に反映してゐたが、今日では逆に「チヤイナ・クラウツ」の主張の方が國務省内で指導的地位を占めてゐる。アメリカ國内政局のかうした變化が先行したればこそ、最近のモスクワ會談において日本管理理事會にソ聯を引き込むことも可能となつたのである。しかし、又逆にソ聯の日本管理理事會への參加によつて「チヤイナ・クラウツ」の主張は日本管理に關し一段の安定性を加へたことも云へる。

現在戰爭で荒廢した國内經濟の復興や世界中のファッショ的封建的殘存勢力に對する追擊戰のために米國との提携を熱望してゐるソ聯にとつては日本管理が「ジヤパン・クラウツ」の線に沿ふて進められることは甚だ困るのである。從つて、將來もしもアメリカの國内政局にが起つてそのやうな方式が日本管理政策の前面に出てくるやうなことがあるとしたら、その時にソ聯は過般モスクワ會談で獲得した拒否權に物を云はせるであらう。ソ聯が管理理事會に頑張つてゐる限り、「ジヤパン・クラウツ」の方式がそのまゝの形で物になるとは思へない。もとより、それかと云つて「チヤイナ・クラウツ」の方式が今後何の妨害もなしに一直線に進行すると云ふのでもない。それはアメリカ國内の兩者の力關係や國際情勢、日本國内の民主々義戰線の成否如何によつて多少のジグザグがあるには違ひないが、基本的な方向が大きく變化することはこゝ當分あり得ないやうに思はれる。

ソ聯が天皇制の温存に反對であることは右の如くであるとして、次に中國の輿論はどうであらうか？天皇制の問題に關する限り、こゝでも輿論の大勢は廢止論に贊成である。長い間天皇の軍隊に苦しめられて來た中國では、國民の凡てが天皇制の何たるやを身をもつて知つてゐる。中國の輿論が天皇制廢止について殆ど一致した見解をとつてゐるのもそのためである。

英國になるとこの點多少中國と異なり、天皇制温存論者も亦なきにしもあらずである。嘗ての駐日大使クライブやクレーギーなどが即ちそれであるが、國全體としてみればもとより廢止論の方が壓倒的に強い。このことはロンドン・タイムスのやうな保守的な新聞でさへ、最近天皇制廢止を唱へ出した事實を見れば明かである。

かういふ風に見てくると日本管理理事會に參加する英ソ支米四箇國の輿論が大体どういふ方向に向つてゐるかは略々明瞭である。ポツダム宣言によれば天皇制の問題は日本國民の自由意思によつて決定し得ることになつてゐるから聯合軍が強權をもつて一定の政體を日本國民に押しつけるやうなことはないであらう。しかし「ジヤパン・クラウツ」的な考へを以て日本國民を指導するか「チヤイナ・クラウツ」的な考へ方をもつて日本國民を指導するかによつて、天皇制の運命も亦大きく左右されることは明かである。

日本國民は今試驗官達が何を考へてゐるかを腹を据ゑて篤と考慮すべき時期である。世界史は我々が好むと好まざるとを問はず今や重大な轉換を遂げようとしてゐるからである

憲法の創造的・追認的性格
——憲法改正事業の現段階とその課題——

佐藤功

一

現在幣原内閣によつて行はれつゝある憲法改正事業は今や一つの新展開を示しつゝあるかの如くである。即ち昨年十月下旬憲法問題調査委員會が設けられた際に、委員長たる松本國務大臣が聲明した様に、この調査會は「憲法改正の要否、及び必要ありとせばその論點を闡明すること」を目的とし、そのため「憲法全般に亘り内外の立法例、輿說等に關する研究を爲し十分の資料を備へ以て極めて愼重に調査を遂げること」を任務としたのであつた。斯くてそれは當初に於ては謂はば純學問的な立場に立つ調査なることを標榜して居たのであつた。

しかし乍ら早くも十一月十日の松本國務大臣の談話（同日、東朝）に於てもこの調査の「中途に於て政治的な問題が入つて來ることも豫想される」とされ、又「憲法改正での最終段階に至つてはどうしても政治的な問題と結びつくことは當然であるからその時は臨機な處置をとる」とせられたのであつた。昨今の情勢は正にこの政治的な問題を考慮すべき段階に入りつゝあるものと考へられるのである。そしてそれは元來今次の憲法改正事業が新生日本の建設のための政治改革の一環、乃至はその規準の確立として把握せられねばならぬ以上、そして聯合國の相踵ぐ指令によつて既に事實上日本の政治構造が革命的な變更を受けて居る以上、事態の當然の推移と言はねばならぬであらう。調査會に於ては既に憲法改正草案が作製せられたかの如くであるが、今やその草案の實現化の方策に着手されねばならぬ段階なのである。

即ち憲法改正事業の目的は言ふまでもなく、民主々義的憲法の確立にあるが、今や現行憲法の下に於て今次の憲法改正を如何なる民主々義的方法に於て實現するかと言ふ點を問題とすべき時期となつたのである。

今次の憲法改正が現行憲法第七三條の手續によつて行はれねばならぬと言ふことは、この事業に對する一つの制約であることは明かである。即ち第一には改正案の發議の權が天皇即ち政府に專屬して居ること、第二には議會の議に附せられた政府原案に對し、議會の修正權の行使はその限りに於て一部の發議權の行使と考へられることから、その修正は政府案に含まれたる事項に關聯する範圍に止まるべきであるとされ、その結果その修正權もまた限界を受けざるを得ないこと、この二つの理由のために要するに民間政治勢力の意思が改正案の上に表現される可能性が著しく少ないのである。

從つてこの制約の下に於て今次の憲法改正事業に國民の意思を反映せしめ、それを民主々義的改正手續たらしめるためには、政府の行ひつゝあるこの事業に對して、その議會に對する發議以前に於て、即ちその草案の作製過程に於て國民の意思を能ふ限り滲透せしめること、及び之に應じて政府當事者はその草案に國民の意思を充分に採り入れる態度を持することが必要となつて來る。その場合現在の調査會に加へて前掲松本國務大臣の談話にも言及されて居た所の臨機の處置の一つとして、國内各勢力の意思を代表するに足る構成を有する所のいはば憲法改正審議會の如きものゝ設立の必要が今や既に起りつゝあると考へねばならず、又最近傳へられるが如く（一月二十三日、東朝）政府の改正要綱を總選擧以前に公表しそれを總選擧の議題たらしめるといふ方針は極めて適當なものであると思はれる。蓋し來たるべき總選擧は憲法改正議會の構成を決定する選擧たることにその第一の意義を認めねばならぬからである。しかして更に憲法改正議會に於ても、政府は恰も議會に廣汎なる修正權あるかの如くに取扱ふこと、即ち議會の反對意見強き場合には虛心淡懷に原案を撤回し再提出するが如き態度をも採るべきことが期待されるのである。

かゝる方法を執るに於ては現行憲法の制約の下に於ても改正手續の或る程度の民主主義化は實現し得るであらう。そして又最近に於て高野岩三郎博士その他をメンバーとする憲法研究會、自由黨、社會黨、大日本辯護士會等々による憲法改正草案が發表せられつゝあることは極めて喜ぶべきことと言はねばならぬ。

要するに今や憲法改正事業は新生日本の政治情勢乃至その將來の動向、更には現在日本を圍繞し壓倒的にその進路を規定しつゝある所の戰後の新しき國際環境の分野への頭眼を要求され、從來の研究的態度に加へて、果敢にして豐かな政治性を要請される段階に入つたと言ひ得るであらう。それは當初からさうあるべきことであつたのであるが、政治の事實は今やその面の強烈な意識を要求して居るのである。

二

第二次大戰後の今日憲法改正が行はれつゝあるのは我國のみではない。我々はフランス及び中國に於て目下憲法制定事業が進捗しつゝあるその状況との關聯に於て我國のそれを考へることを怠つてはならぬ。

それらは何れも戰後の新しき政治勢力の勃興を背景とし、それが憲法改正の主體的勢力たる地位を占めて居ることを示すものである。そしてこの二國の現在の状況は茲に問題とした我國の憲法改正手續の點に對しても、極めて示唆に富むものである。即ちフランスに於ては憲法制定の準備的手續として先づ國民投票が行はれ來たるべき憲法制定議會は兩院制でなく一院制とすべきことを壓倒的多數を以て決定し、次でその下院議員總選擧が行はれ共產黨と社會黨より成る左翼陣營を議員の過半數たらしめた。即ち來たるべき憲法制定に對してこの新しき政治勢力が占むる優越的地位が之によつて確保せられたのである。

中國に於ても戰爭を通じて今や絶對的に強固たる勢力を獲得した中國共產黨は立憲問題を解決すべき現在の國民大會が十年前國民黨の一方的に指名せる代表より成るものであることを攻擊し、その改選を要求することによつて憲法制定に對する自己の政治的發言權をその實勢力に相應せしめんと欲して居る。この兩者は何れも新しき政治勢力の勃興と云ふ既成事實の上に新憲法の制定を行はんとしつゝある動向を示すものと言ひ得るであらう。

しかるに我國に於てはかゝる新しき政治勢力は未だに、この二國に於けるが如く、憲法改正に對する既成の前提條件にまで確立されては居ないのであつて、今次の憲法改正が旧き政治勢力を代表する幣原内閣の手によつて行はれつゝある所に特徴がある。即ち總選擧の結果新しき政治勢力が社會黨、共產黨として議會に進出することは豫想せられるけれども、その場合に於ても先に述べた如き理由によつて改正案に對する彼等の發言權は制約を受ける。かくて我國の今次の憲法改正事業は要するに新憲法の主體的トレーガーたるべき政治勢力の未熟の裡に、且つその發言權を制限しつゝ行はれると云ふ性格を有するものなのである。そしてこのことは現下展開されつゝある民主主義革命が、我國自身の手によつて開始されたものではなく、聯合國の手によつて與へられた所の、上からの所謂無血革命であることに基くのである。

しかし乍ら固よりこのことは、近き將來に於て新しき政治勢力が我國の政治に支配的地位を占めるに至るであらうことを否定するものではない。假令その出發の道が聯合國によつて開かれたものであるにしても、新しき政治勢力の成長のための基盤は既に用意されつゝあるからである。從つて、現在の憲法改正事業は前に述べた如く新しき政治勢力の未熟の裡に行はれるものであると共に、同時に又それの必然的な成長を豫定しつゝ行はれねばならぬものである點にその基本的性格を見出さねばならぬのである。

三

現在新憲法の模範とすべき進步的憲法としてワイマール憲法が引例せられることが多い。このことはそれ自體固より正當なことであるが、ワイマール憲法への魅力を感ずる前に、ビスマルク憲法からワイマール憲法へと移る前に、第一次大戰の末期に於て一九一八年一〇月二八日ビスマルク憲法の改正が行はれた事實についても我々は充分な注意を怠つてはならぬと考へる。

この一〇月二八日の改正は、周知の如く、ドイツがアメリカに對し和平の提議を行ふに際して、その現在の政府が從來戰爭を遂行し來たつた所の軍國主義的政府とは完全に異る民主主義的政府なることを制度的に表現せねばならぬ必要に迫られて行はれたものであり、從つてその改正の核心は、皇帝の宣戰講和、條約締結の大權の行使には議會の同意を要するとしたこと、軍の編制、統帥についても議會の統制に服するものとして議會は宰相、陸海軍大臣を通じて皇帝に對し責任を負ふ旨の明文を設けたことによつて、皇帝の權力の重要なる部分をすべて議會に委讓し、所謂ドイツ的立憲君主制を純然たる議院内閣制たらしめたことに在つたのであつた。しかし乍らこの改正も時既に遅く、その後旬日にして革命が勃發し且つ成就されたのであつた。

この一〇月二八日の憲法改正の失敗は、ビスマルク憲法の下に在つてその體制の基礎たりし「王室、官吏及び軍隊、即ちドイツ國家指導の旧き傳統的諸勢力の固き結合」に對して新しき政治勢力が既に早くより成長して居たこと、從つてこの憲法改正の有無に拘らず、所詮は新旧政治勢力の決定的な對決が必至であつたことに基くと言ひ得るであらう。

現在我國に於ては前にも述べた如く新しき政治勢力は當時のドイツに於けるが如き成長を示しては居ない。從つて少くとも現在の段階に於ては我國にとつてはドイツの一九一八年の改正と性格を同じくする改正が行はれ且つ成功する可能性があると考へられるであらう。しかし乍ら此の場合、先に述べた如く新しき政治勢力の成長を豫定せねばならぬことを認めるならば、それは一九一八年的の改正の段階のみでは足りぬことをも意識しなければならない。松本大臣の累次の談話等から見て現在の幣原内閣は能ふ限り改正の範圍を少くし、謂はば一九一八年的改正の域に止めたい意向の如く考へられるが、問題は正にかゝる改正を以て今後の我國の政治を規定し得るかに存する。

蓋し凡そ憲法の制定乃至改正に當つては、新憲法は文字通りの意味において永遠憲法ではないとしても、少くともその意圖においては永遠憲法を目指すものでなければならぬからである。幣原内閣が自己の代表する旧き政治勢力が所謂後退すべき運命に在ることを認識しつゝも、能ふ限り永遠憲法たらしめることに努力せねばならぬと言ふこのヂレンマ的状況に現在の憲法改正事業の性格の核心があると言へるであらう。

四

憲法研究會の憲法草案要綱はこのヂレンマを補則の末條において「此ノ憲法公布後遲クモ十年以内ニ國民投票ニヨル新憲法ノ制定ヲナスベシ」と定め、この憲法を暫定憲法たらしめることによつて解決しようとして居る。即ち遲くも十年以内に新しき政治勢力が成育することを豫想し、この前提條件の完成を待つてその既成事實の上に永遠憲法を目指す新憲法を更に改めて制定せんとするのである。從つてこの當面の暫定憲法はその新しき政治勢力の成長のための門戸、乃至その規範を提供することを目的とするものであり、從つて特に社會的、經濟的部門、即ち國家の政治形式よりは寧ろその政治内容の部門に於て從來の秩序を打破することに重點が置かれて居るのである。

例へば「國民ハ健康ニシテ文化的水準ノ生活ヲ營ム權利ヲ有ス」「經濟生活ハ國民各自ヲシテ人間ニ値スヘキ健全ナル生活ヲ爲サシムルヲ目的トシ正義進歩平等ノ原則ニ適合スルヲ要ス」等の規定はその著しい例であると言へるであらう。總じてこの憲法草案は綱領的色彩が極めて濃いのであるが、それはこの草案の目的から見て當然と言へるであらう。即ちそこには憲法に於ける創造的性格の面が強く出て居るのである。

かゝる綱領的規定に對しては、特に今後の我國が戰後の疲弊の辛酸を嘗めねばならず、國民の社會的、經濟的生活は右の條文の謳ふ所とは凡そ正反對のものとなるであらうとし、かゝる規定は空虛なる空文と化するに過ぎぬと云ふ反對が生ずるであらう。この立場は憲法が有する所の未來に對する創造的性格よりも、現實に對する追認的性格を重視する立場であると言へるであらう。この立場に立つ憲法は實現不可能の虞ある綱領的規定を避け、能ふ限り現實に即した規定を設けることに努めるであらう。そこでは勿論暫定憲法たることを標榜するが如きこともないであらう。

五

憲法研究會の草案に比較すると自由黨の草案には著しく綱領的性格が弱く、理實的、追認的色彩が濃い。それはこの二つの草案に結晶せしめられた兩政治勢力が現在日本の政治の裡に變革的要素を強く見るか、安定的要素を強く見るか、換言すれば發展的勢力の側に自らを立たしめて居るか、守旧的勢力の側に自らを置いて居るかの相違の結果に他ならない。政府の改正案の立場も亦憲法研究會案に對する關係に於ては自由黨案のそれとその基礎を同じくするものと想像し得るであらう。そして既に繰返し述べた如く、それは我國の今次の憲法改正事業の基本的性格の當然の結果なのである。

しかし乍ら斯く言ふことはこのヂレンマを解法しなくてもよいと言ふことではない。現實的憲法たることを困難しつゝもそれは同時に新しき政治勢力の擡頭を豫定し、且つそれを阻害する如きものであることを許されぬのである。そしてこの場合憲法研究會案の如く暫定憲法たることを標榜するのでないとするならば、そのヂレンマの解決方法はどこに求められるであらう。それは即ち改正憲法に於て現行憲法第七三條の規定を改め、憲法改正の發議權を議會又は國民にも賦與することでなければならぬ。かくすれば新しき政治勢力は直接に國民の中に或ひは議會の中に發現し、その意思に合[illegible]——或ひは憲法改正の反覆を經るやも知れぬが——ラッサールの所謂現實的勢力關係と憲法との一致が實現せられ、我國の憲法生活の安定が政治の安定と共に齎されるであらう。

この意味に於て憲法改正手續の改正と云ふことが今次の憲法改正事業に於ける要點であると言ひ得る。即ち今次の憲法改正は之によつて更に將來の改正に途を開くが故に、假令改正案が現實的、追認的性格を維持するものであつても、この第七三條の改正さへ怠らぬならばそれはそれのみで創造的性格を有し得るのである。

又それは暫定憲法たることを願はぬとしても政治的には暫定憲法たらざるを得ぬのである。即ち我々は現在行はれつゝある改正を以て最終の憲法改正事業なりとしてはならない。むしろ[illegible]を豫想し、何時の日か政治勢力の安定の際に行はれる最後の改正を以て、戰後の我國に於ける全體としての憲法改正事業が終末を告げるものとなるべきであらう。即ち目下行はれつゝある憲法改正事業もかゝる系列をなす全體としての憲法改正に於て一つの段階的意義を有するものとして把握せらるべきであらう。（筆者は東大講師）

兩立し得る餘地ありや
——民主主義と天皇制についての考察——㊤

加藤新平

本來自由・平等・獨立なる人格者たる國民が、自己自身の意志によつて自らを統治する、彼等が從ふべきものたる國法も實は自己自身の意志に外ならぬのであり、彼等の相一致した自由なる意志の外に、他より來つて彼等に臨む何等の統治の權威もあるべき筈はない——デモクラシーはこの徹底的な自律の原理に立脚するものであると思ふ。その根柢には明かに社會契約の思想が横はつてゐるのである。今その中に宿る理念的側面だけに注目して言へばそれは次のやうな主張を含んでゐると言へよう。

即ち、國家の存在理由に就ては、吾等が國家的共同生活をなすのは、國民各自の生命・自由・財產・福祉等が共同に普遍的法則的に（法的秩序の下に）確保せられ得るために、吾等がその必要を認めそれに同意（契約）してゐるが故であり、從つて第二、國家の統治を指導すべき理念も亦全面的に國家契約の趣旨に副へるものでなければならぬ——即ち、統治、立法の規準は、自由平等獨立なる人格者としての理性人が凡て普遍的に一致し得るやうなもの、交互的普遍的に同意を與へ（契約し）得るやうな原理のものでなければならぬ。

近世啓蒙哲學に現はれた社會契約の理念を徹底的に追究する時、吾々の注意は多くこの點に向けられる。ルソーの總意とは究極に於ては、右の理念に從つて公共の利益のために働く意志であり、カントの社會契約の理念も亦右の如きものだつたのである。然し乍らそこには更に、右のものと必然的内面的に緊聯しつゝ、然ももつと基本的本來的な他の一つの要求がある。それは統治し立法するものは國民全體の合致した意志でなければならぬといふ、意志主體に就ての要求、所謂主權在民の思想である。デモクラシーの思想はこれを根柢とするものである。（近代社會契約說の先驅者であり乍ら絶對國家の主張に達したホッブスの契約思想は當面の問題との關聯上ここでは全く顧慮しない）

若し社會契約の思想を統治の指導理念といふ面にのみ限定し、一國の統治が社會契約の根本趣旨に從つて（或は總意の要求に從つて）行はるべきだと言ふ要請を掲げるもの、といふ風にだけ解せば、統治の主體は必ずしも國民全體の合致した意志でなくてもよいのであり、むしろその意を體して働く聰明有德な君主の手によつて却つてよく達成される場合もあり得る筈である。人々は右の意味に於て統治權の掌握者が人民たるか君主たるかに拘はらずデモクラチツクな統治といふことを言ひ得るかも知れない。（勿論そのためには君主制に於ても實際には立憲政體による統治樣式が必要とせられようが）

然し乍ら、デモクラシーを嚴密に解する時は、それは所謂主權在民の思想——統治權を全體として掌握する者、國家意志の究極的全體的決定者は人民の總體だといふ要求に歸着するの外はない。而してこの思想に立脚した政治形態は——若しそれが可能ならば重要な國家意志の決定の全般に亘つて少くとも立法に於て國民全體の意志の合致による如き制度を理想とするであらうが——代議制元首をも含めての重要な國家機關の公選等であり、而してその一切に於て多數決の原理を中核とするものなのである。通常、デモクラシーは多數者支配の原則に立脚するものであり、この點に於て、嚴密には、個人人格の自由を最高價値となす所の、從つて又少數者の人格價値、自由も亦等しく尊重されねばならぬとする自由主義とは、原理上異なる、と言はれるやうに、ここでは意志の質よりもその數が重き意味を持つのである。

以上要するに、國家意志を全體的究極的に決定するものは人民自らであり、それは實際には人民の總體によつて行はれる、多數の方法によつて行はれる、といふのがデモクラシーなのである。その土台をなすものは、國民各自が自由平等獨立なる理性の主體であるといふこと、國家統治はかゝる國民の自律によつて行はるべきだといふ、合理性、自律性の要求に外ならぬ。

デモクラシーを右の如く嚴密に解せば、それが吾國の天皇制と決して相容れないものであることは明白である。天皇制下の民主主義とは一の矛盾である。天皇制とは言ふまでもなく、世襲君主たる天皇が國家の統治權を全體として掌握し給ふと言ふ統治體制である。單に象徴の源泉或は國家的儀禮を司る者としてのみ天皇の御地位を考へるといふことは、素直に問題を考へる時、決して天皇制の承認であるとは言へない。

所謂主權が世襲君主たる天皇にある、然もそれは決して、本來的第一次的には人民にある主權が人民の承認によつて天皇に歸屬せしめられるといふのではなく（民主主義的主權はルソーの言ふ如く讓り渡すことはできぬものである、蓋し人民の包括的自律的統治意志はその意志としての性質上他に讓り渡し得ぬものであるから）、又委任によつてそれを行使するといふのでもなく、本來的第一次的に天皇にある——この天皇制の本質は、明かに主權在民の民主主義とは矛盾する。

若し人あつて『國民の總意を表現するものは吾國に於ては天皇に外ならぬといふことが明かになれば、人民に主權があることと天皇が主權者であるといふこととは一つになつてしまふ……そして吾國に於ては（歴史の示す如く）國民の統一、國民の總意は何時も天皇に於て表現された』（和辻博士、京都新聞一月四日）と云ふ風にして兩者を一致せしめようと試みるとしても、それは言はゞデモクラシーの精神と天皇制との和解の一つの道を示すものではあつても、これによつて決して兩者の本質的矛盾は解消され得るものではない。

歐米の民主主義者にとつて、殊にその國の抑々の生ひ立ちよりして社會契約的思想に導かれ主權在民且不可讓渡の信念に立脚したアメリカの民主主義にとつて、天皇制に對する日本人の愛着が如何に不可解なものであり、且つその神祕性が如何に色濃く目に映るかといふことは、容易に首肯される所である。

欲すると欲せざるとに拘はらず吾々は右の如き事態を冷靜嚴酷に直視せねばならぬ。そして次に又、よき國家生活の運營のためには、國民の自由が尊重され總意が正しく生かされねばならぬこと、國民による政治生活の合理的自律的運營といふ所謂民主主義的要素が絶對に必要なることをも承認せねばならぬ。人格の自由自律性の尊重は、眞に高き道義的國家生活のための不可缺の要請であり、武斷と專制とは常に價値あるもの、正義の實現の敵だからである。

△……▽

右の二つのことを前提とした上で然も尚私は斯く尋ねようと思ふ——所謂民主主義の含む諸々の要請と天皇制とは、その如何なる點に於ても絶對的全面的に相容れぬものであるのか。主權在民の思想を貫き、統治形態を徹底的にそれによつて規定しようとするならば、これが天皇制と眞正面から衝突するものなることは前に述べた所よりして明かである。然し、今この民主主義の文字通りの要求を言はゞ緩和して、その精神的實質、統治といふ點をとり上げ、これと國民自治の要求、總意に立脚した天皇主權とを、言はゞ實を採つて形式を捨てると言ふ工合にして結合する道はないだらうか。

この際直ちに吾々の脳裏に浮ぶのは、言ふまでもなく立憲政體の徹底的實現といふこと、民意を代表した獨立なる國家機關の協贊制約なしに統治權の發動は行はれぬといふ體制を確立するといふことである。（所謂憲法上の保障の確立）そしてこれが現在吾國の支配層に於て試みられてゐる憲法改革の方向であり、又實際の統治形態に於ける兩者の結合はこれ以外にはないと思ふのであるが、然も兩者の結合調和と言ふことに關聯して生れる所の、理論的解決を迫る問題は、實はこれから先にあるのである。（未完）

（筆者は京大法助教授）

噴火口

學生消費組合運動へ

▽…食糧難につけ込んでの闇商人の專横に備へ巷に消費組合設立の聲が昂まりつゝある今日各學園に於ても、職員學生の積極的活動によつて學園消費組合の活動は漸次其形態を整へてゐる、併し乍ら現今の錯綜した經濟狀態に於ては、之等消費組合も平時の如く原則通り進行しない憾がある。どの組合も定款だけは立派に出來ても、資金難、輸送難、物資購入ルートの貧困、學生委員による物價見透しの拙劣等の諸點が難點として數へられてゐる。是に於て專門的マネージャーの雇入れと之が爲めの資力の援助が刻下の急務とされてゐる。

▽…然るに一方世間では職を失つた戰時利得者は組し易い好餌として之等組合に着目しつゝある。即ち利得財產の活用と財產税の逃避に汲々とした彼等は學園組合の之等の弱點に乘じ、甘言を以て其の幹部への就任を策し、名義の利用、販賣所及び倉庫の確保、或は私財の隱匿等を企て私腹を肥やさうと努めてゐる現狀である。學園消費組合の運動は學問繼續の目的に副ひ自力で生活問題を解決し、學問繼續への保證を企圖する純粹なる動機に基くものではあるが、何分にも學に携はる非社會的職員學生によるものであるだけに惡德業者の喰物とならずに健全な發達を遂げる事を切望する。（M）

投稿歡迎

本欄への投稿を左記により募集す
〆切＝毎旬六の日
内容＝文教、學生生活等に關聯したトピカルなもので抽象論よりも具體的なるものを歡迎します
字數＝六〇〇字以内
宛先＝大學新聞編輯部噴火口係

西洋史の課題

西井克己 ㊦

而して社會主義は通常近世的理念を揚棄し得べき全く新しき時代の歴史的理念として掲げられ來つたものであるが、假令かゝる說が全面的支持を受けるか否かは別として、若し何等かの意味においてこれと大異なき觀點にたつならば典型的な資本主義國家英、米兩國の半封建的殘滓を有ちつゝ而も一方強引な帝國主義的行動を執らねばならなかつた樞軸國家への鮮かなる優勝は、中世的理念は最早や今日ではヘーゲルのいふ「理性的なもの」ではなくなつてゐるといふことと同時に、又同一の歴史的理念を基調とする諸國家間にあつては、そのよりよき具現者こそ眞の勝利者、乃至は世界史の指導者たり得るといふことをも明白に示したし、社會主義國家たるソ聯邦の國家社會主義國家、殊に獨逸に對する幾多の苦闘を耐へ得たる後の燦然たる究局の勝利は、國家社會主義なるイデオロギーは、彼等の誇稱にも拘らず、結局新たなる時代において現實となり得べき歴史的理念ではなかつたことを證明したといふ事も出來るであらう。

以上によつて吾々の得たる一般的結論は、歴史的理念は[illegible]歴史的理念であつて永遠性を有つものではないといふこと、及び、既に過去的となつた非現狀的な歴史的理念に立脚する國家は所詮歴史の敗北者たらねばならず、又同一の歴史的理念の上にたつ國々にあつては、そのよりよき具現者こそ眞の勝利者乃至は世界史の指導者たり得るといふことである。

今次大戰がそれに就いて歐洲に示した具體的なことは、中世理念は最早や今日の世界史上何の存在理由を有たず、現實化さるべきものは、唯近世的理念とそれを止揚すべきものとして現はれる歴史的理念あるのみであるといふことである。

私は唯かかる事實こそ現代歐羅巴の現實の本質的な姿であり、又それを正しく見究めることの中にのみ現代歐羅巴が自己の問題として解決を要請せられつゝある歴史的課題が示唆されてゐるのであると信ずる者であるが、それは又同時に世界の、從つて吾國の歴史的課題をも暗示するものであらう。

太平　二月號　近日發賣
☆科學教育の方向……岡邦雄
☆家族制度と婦人の地位……中川善之助
☆天皇制論議その他……本田喜代治
☆京都哲學派崩壞の經緯……西山正夫
☆山本宣治の憶ひ出……三田村四朗
☆時代と女性風俗……新居格
小說
少年と蓑の話……舟橋聖一
戰爭の表情……イリヤ・エレンブルグ
☆福澤一郎・生田蝶介・飯田蛇笏・他隨筆評論
價一圓五〇錢　送料五錢
直接注文は振替東京一九〇四
東京・日比谷　時事通信社

決定版　ジイド全集　全十五巻
決定版　宮澤賢治全集　全八巻
日本讀書組合近刊豫告（組合員及新入會希望は切抜用紙添附の上御申込下さい）
組合長　武者小路實篤
東京都神田區西神田二ノ四建設社内
組合事務所　日本讀書組合

自由叢書
民主政治の確立　自由黨　鳩山一郎　1.00
我等は挑戰す　民主同盟　安田武雄　1.00
新日本の構想　新日本黨　東孝行　1.00
天皇制打倒　1.50
[illegible]
文苑社　振替東京111.296

中西功著　ソヴエート革命と中共
「中國革命運動史」全十二巻中第一回配本
マルクシズムのABC
「資本論」解說　向坂逸郎著
北斗書院

春秋社新刊
エマアソン　代表偉人論（1）
カーライル　サータア・リザータス（1）
マルコ・ポウロの　東方見聞錄

日本新生の日のために
新刊　堀内庸村著
日本の反省（戰爭原因篇）
青年文化振興會

再建　社會評論
民主戰線の提唱
天皇制批判
「大祖國戰爭」——イ・スターリン
發行所　ナウカ社

論評　創刊號發賣
現代世界史の課題……松本愼一
日本經濟と民主主義……有澤廣巳
中國新民主主義……中西功
日本政治經濟の變革（座談）
あらたな世界觀へ……古在由重
デモクラシーの流行……清水幾太郎
封建制度と封建精神……長谷川如是閑
（創作）春の出水……伊藤永之介
河出書房

福本和夫著
獄中十四年（前後篇）
新日本への進言（近刊）
創建社

人文 自然
學界の回顧と展望

農業經濟

眼前事實分析の要
現代農業の封建的性格究明
古島敏雄

「農業經濟機構の史的研究の必要と動向」と云ふ題目で寄稿を求められ、氣軽に引受けたものの、筆を取つて見て、自分の氣持が要求に向いて行かないのに驚くのである。略々求められた枚數書き上げたものが、過去十年の研究史の槪觀であり、或は何時か世間で云ふ封建的なものの反省となつてしまつてゐる。讀者の要求がそのやうな点も問題としてゐるからである。今改めて右の題目を置いて考へて見る時、民主主義の確立を阻むものとして封建的なものの存在が指摘され、その本質究明を歴史に求めると云ふ世にあり勝な態度が自分には納得出來ないものである事を見出すのである。

我が國を開戰に導き、敗戰に導いたものが、我が經濟體制の特質であり、それが封建性の殘存にある事には同感するし、農村殊に土地制度に特に强く封建的なものが殘つてゐる事は認めるが、それが特に歴史の問題であるとは考へられないのである。普通に封建的であるとして非難する言葉の使ひ方のうちには、曾て米英的と云ふ言葉が敵に好ましからぬものの總括的表現として用ひられたと同じ意味で無限定な勝手な用法があり、或は單なる罵倒にすぎないものも多いことを知るのである。假にその言葉が正確に用ひられてゐるとしても、そこに問題とされる現象が眞に現實的な意味を持つ現象であるならば、それは決して存在の根據を過去に持つものではなく、眼前の社會、經濟條件の中に存立の地盤を持つに違ひないのである。それを先づ過去の研究たる歴史に求めるとしたならば、現實分析を目的とする科學を輕視するものであり、或は現實分析の學の意義を表明するものと云はざるを得ないのである。

現に眼の前に見る經濟、政治、文化等あらゆる社會現象に見る動きのとれない低滯は、國民の社會意識、國民意識の低さのうちに重大なる原因を持ち、その限りで封建的なものを云々する事も出來るであらうが、それは今の條件に規定せられてゐる。それは特に農村の問題でなく、あらゆる生活部面の問題である。戰爭中言論界が驚く程一色に塗りつぶされ得たのとその時とは異つた色彩をとつてはゐるが現在又しても略々一色の物の見方が支配してゐるのは、我々の總てが自主性を欠いてゐる事の表現であり、一應分析を誇示する知識人にしても物事を單に大雜把な傾向としてのみ把握するにすぎず、自己の判斷によつて物事を分析し、自らの論理によつて綜括する力を欠いてゐる事の表現であるとしか考へられない。自らの何物かに捉はれた思考力、社會的行動を思ふ事なく、外部にのみ缺陷を見出し、新しい物への動きを阻害する力を封建的なものとしては主として農業に求める事のうちに、譬喩的に言つて我々全部に通ずる封建的なものの制約があるやうに考へられる。

農業・農村を中心として云ふ時、古い土地制度の特質の殘存は、一應、明治に於ける我が資本主義的出發の置かれた世界史的地位に求められ、そこに武裝の要請のあつた事によつて説明せられて來た。外國資本の植民地たる事を免れるために武裝した資本國たることの條件として農業の犠牲に於ける軍事產業の育成があつたと普通に説かれてゐる。その際農業に負はされた地租の重壓は、絶對的には減少し、封建的な高さを持つたとされる小作料さへ、その存續の條件、農民の生產に對する壓力の程度で衰へて來てゐる。

聯合軍の指令が農民の解放を云ひ、農民の保護を説いた時、農奴を人間にすると云つた思想にそのまゝ同感を持つた農民が如何程あつたかと云ふ疑を持つ事が出來る。勿論自ら解放されてゐると考へる事と眞に解放されてゐる事とは別問題である。自らの抑壓を意識しない事は却つて抑壓の深さを物語るものであるとも言ひうるであらう。戰爭以來農民は曾ての負債から解放され、米の供出を通じて物納小作料下にありながら、地主に對する小作料納入は直接の關係ではなくなり、寧ろ國家と直面する形になつて來たと云ひうる。高い物納小作料の下にありながら、乏しいとは云へ漸次余裕を生じて來た農民は食糧問題の窮迫と共に、國民の中に於る自らの地位について從來と異つた感を持つに至つてゐる。

土地制度の壓迫からの解放と言つたものが事新しく稱へられる時、自作農化或は小作料金納化の持つ意義は現在に於ては、地主からの解放でなく供出からの解放であるとも云ひうる事情があるのである。而も尙根强く存在する農村内部の社會關係及農民意識に見られる封建的性格は今尙その地盤を持つとも云ひうる。不在地主及巨大地主だけが問題とされ、在村の小地主は上層自作農として保護され、その地主性の持つ小作農に及ぼす影響は看過され勝なのであるが、此所に强力な封建的性格維持の保護がある事は別として、今の政治機構全体の中に自作農をも封建的ならしめる地盤があるとせられるのである。

戰爭を前提した人口政策、食糧政策を代表とする所謂農民保護政策の全体が、そのやうな点から究明されなければならないのである。例へば食糧自給の要請は劣等耕地の耕作確保の方向に向ひ、旧來の水利關係其の他を維持せしめ、ここに特有の社會關係が殘るのであるが、更に水田の勞力需要の特質と零細小作農の一應の最低生活の維持可能なる事が、五町歩以下的小地主の小作農を衛星とした農村社會に於ける支配的地位を確保すると云つた面があるのである。

△……▽

右の如き關係は單なる過去の關聯ではない、それは現在の經濟に置かれた條件の適應の要求が基底となつて、古い水田耕作の條件を發動せしめるのであり、その古い條件は眼前の事實として我々の分析を俟つてゐるのである。現在を規制する各種の條件の中には勿論既にその存在の必然性を失つた過去のものもある。それらの過去に於ける必然性と殘存の機構が歴史に問はれる時、勿論我々歴史研究者はその研究に對する重大な義務を感じる。併し過去に於ても又現在に於ても略々同樣に存在する關係は、技術的な條件の分析は、我々も過去のものとしては問題とするが、對象を眼前に持つ現状分析者にその活躍を望まざるを得ないのである。

現在の歴史性をその歴史性に基いてする分析が、最もよくそのやうなものを解明するのである。假に農村の封建的性格解明が刻下の急務であるならば、それは眞に歴史的な方法を以て現在に即して行はるべきものなのである。此の場合の要求は過去の現象の時代的性格の究明を事とする農業史學に求めらるべきではなく、現實分析の歴史的方法に求めらるべきであらう。

我が國小作制度の特質の分析は既に十數年以前、山田盛太郎氏によつて確たる一方面が與へられた。現在の物納小作料の性格を規定するものとして名子制度に於ける賦役が指摘せられたのであり、その時以後その点を中心として幾人かの人々が論爭を行つた。その場合現代農業に於ける名子制度の持つ機構的意義は十分明かにされたとは言ひ難い。物好的な殘存に關する物語を提供するにすぎないものが多いのであり、殘存とする事から問題を過去に追ひやる風が强かつたのである。

その過去の研究も決してそれを生產の問題としては取上げてゐない。却つて問題は東畑精一氏の定率的な代金納小作料、物納小作料の刈分小作的性格の指摘によつて、小作關係の持つ經濟的な意味が追求されてゐるのである。

此の問題に關して農業史家としての我々は勿論我々自身の問題を持つてゐる。名子制度が生產關係として如何なる時代の關係であるかを追究する事、江戸時代封建制に於ける機構的意義の解明等である。古島の伊那被官制度の研究等はそれを目指したものである。此の十年間精密の度を加へた庄園研究等もその線に沿つたものと云へよう。石母田正、藤間生大両氏の古代社會の研究、松本新八郎氏の名田研究等は更にその上限を明かにする事によつて名子制度の本質究明に力を供するものである。

此等の点に關する研究は更に生產機構の問題として、各時代に併存する他の小作形態との關聯、それらの全体と農業技術、社會經濟全般との關聯の問題として更に深められねばならない事は云ふ迄もない。更には其等の關係の中にある農民の經濟意識、社會意識の形態、それの具体的な規制のされ方の研究などは勿論現在の研究に大きな示唆を與へうる事は云ふ迄もない。現代日本人の意識が國民意識にまで高まつてゐないとさへ思はれる点は、或は此のやうな過去の研究と比較されて明瞭度を增すかも知れない。併しこゝでも過去の研究は現在のそれに代替しうるものではない事を銘記しなければならない。

△……▽

水を繞つて生ずる農村社會の特性は曾てアジア的生產樣式の問題として一應提起せられた所であるが、我が國については具体的に究められてゐるとは言ひ難い。猪俣津南雄氏の「農村問題入門」が歴史理解の鍵としてその一つの理解を提示してゐるのであるが、各時代について灌漑が農村社會關係の上に果す具体的な役目は明かにされてゐない。今再びその点は水田農業の運命と共に問はれねばならぬ。

殊にも米價政策によつて維持された水田耕作の生產力の段階が水を如何に制約し、又水が如何に生產力を制約したかと共に、社會形態、社會意識を如何に決定するに役立つてゐるかゞ問はれねばならない。それは食糧自給を必要とせず、又食糧自給のために關稅障壁を設くるを得ない今後の農村が如何に成り行くかの見透しの基礎知識ともなりうるのである。

發電機及び近代的治水施設を缺いた時代の問題として我々は江戸時代以前について同樣の問題を持つことが出來る。中世について寶月圭吾氏、中村吉治氏、近世について喜多村俊夫氏の優れた研究を既に持つのであるが、中世については庄園領主の例が問題の中心となり、そこに結成された農民社會の問題は史料の制約によりて十分には果されてゐない。

近世についても用水路開設の起源、その管理機構が中心となつて、農業生產の基礎を制約するものとしての水の特質に基く社會的な側面は未だ十分には追究されてゐない。それらの点は水田農業の基礎的問題として今後の研究に於て十分解明されねばならないものであらう（筆者は東大農講師）

綜合雜誌評

新鋭の氣魄に欠く
高山毅

綜合雜誌とは本來文化の綜合的な表現であり、一國文化の時代の標識であるといはれるが、最近における綜合雜誌の氾濫現象はどう解釋されるのであらうか。新年號よりの「改造」「中央公論」の復活「世界」の創刊終戰直後における「新生」の出發その他綜合雜誌と銘打つた雜誌が雨後の筍のごとく簇出せんとしてゐる今日の傾向はどうみるべきであらうか。恐らくこれについては肯定的な立場と否定的な立場がとられるにちがひない。確かにこれら雜誌經營の基盤がコンマーシャリズムにあることは爭へぬが、しかし私はそこに良心的なものがあるか否かによつて問題は異なると考へるものだ。綜合雜誌の中には明かに營利をのみ目的とし、確實なる經營的基礎の上に立たずして發刊をしてゐるものもなしとしない。率直にいつて一年間程度發行を繼續し得る見透しのつかぬ雜誌は、社會的文化的に殆ど貢獻することがないと思ふので、この際自肅を望みたいくらゐだ。けれども言論、出版の自由の楯にとつて發行するといふのであれば、結局讀者がその存廢を決定するほかあるまい。もともとその經營の目的が營利主義にあるのだから、讀者がないといふことになれば、さやうな雜誌は自然、發行することが採算に合はぬことになるからだ。この点では私は多少、綜合雜誌の氾濫現象に辟易するものではあるが、それにも增して矢張り何といつても嘗ての綜合雜誌と同じ性格の雜誌の出現を喜ばずにはゐられない。あの以前の「中央公論」「改造」と同じ表紙の雜誌を手にして、何かしばらく旅にでも出てゐた親友を迎へたやうな懐かしみを抱いたのはひとり私のみではあるまい。

だが、それらの雜誌の執筆陣を見た瞬間、私は不圖、一種の戸惑ひを感じずにはゐられなかつた。何故なら、そこにみられる顔觸れは、支那事變前の、今から十幾年か前の、當時における執筆メンバーと殆ど變りがなく、われわれは遙かに過去の世界に連れ戻されたかの錯覺に陷入らざるを得ないからだ。いつてみればあまりにも古馴染の連中ばかりではないかといふ印象が强い。「旧顔の再登場」といふことが實に決定的な特徴であつた。

恐らくこれは編輯技術の上から來たのに相違あるまい。これら雜誌の編輯者自身が丁度、旧顔の再登場と照應する程度の年輩の人々によつて占められてゐるといふやうな事情、ならびに比較的懸念なく安心して原稿が依頼出來るといふやうな事情に基くものにほかあるまい。だがより本質的には、これは我が國文化の現在の狀態の反映だといはねばなるまい。滿洲事變以來、我が國の言論は極度の抑壓を受け、久しきにわたつて文化的に空白の季節が存したため、今いはゆる新人を求めるのは困難であるといふことだ。新人といふことの本當の意味であらう「若き世代」は文化的水準の点で相當の立後れを余儀なくされたのであり、これを克服して登場してくるには、尠くも若干の時日を以てせねばならぬと考へられるからだ。われわれはこの事情を深く諒得するとともに、その一日も速かなる登場を望むのであるが、このため雜誌ジャーナリズムが新人の發見育成に努力を傾注すべきはいふまでもない。文化的な斷層を待つ我が國として旧顔のカム・バックは一槪に排斥さるべきでない。むしろ差當つては當然のことといへるが、しかし編輯者としては旧顔の旧人から旧顔の新人へと視野をかへて行くことが誌面に新鮮味を加へる所以ではなからうか。

ところで一般的にいつて、私はその書かれたものに何か生きんとする逞ましい意慾なり、激しい情熱といつたものが感じとれなかつた。何か氣魄の乏しさを痛感させられた。嘗ての綜合雜誌には確かに一種の激しい息吹きがあり、讀者をして何か强く感動させずにはおかぬ執筆者の氣魄が籠つてゐたはずだ。然るに新生綜合雜誌においては、その説くところは槪ね妥當であり、成る程と首肯させはするが、それは讀過の際だけにとゞまり、讀後に强い影響力をもつといふことがない。或るものは一應激しいものをもつてはゐるが、足が大地についてゐない、抽象的な觀念論を振廻してゐるに過ぎぬ。眞實一路の强靭性といふものが缺落してゐるやうに見受けられた。何故さういふ結果になつてゐるか。私はそれらが眞に民衆の生活に基礎をおいてゐないところに、その眞因がありはせぬかと思はれるが、どうであらうか。

綜合雜誌全体としての印象は以上に盡きるが、個々の雜誌についていへば、また相互間に多少づつ趣きのちがひがあげられる。先づ「中央公論」からみて行くと、これは、蠟山政道氏を主幹としてゐる。蠟山氏は主幹として「總選擧に當つて國民に寄す」といふ卷頭言を書くとともに「我が國体と民主主義」といふ卷頭論文を書いてゐる。この卷頭言はその編輯後記によれば、社論ともいふべきもので、我が國ではまだ試みられなかつた新形式だとある。必ずしもさうとは思へぬが、一應言葉通りに受取つて結構のことだと考へたい。しかし、編輯技術の上からいつて、非常に狹い誌面に同じ筆者の論文を二つ掲載してゐるのはどんなものであらうか。私はもちろん、かうした編輯方法に異議を唱へようといふのではない。問題は既にこゝにその一端を示してゐるごとく、「中央公論」全体の色彩が、余りにも蠟山色に偏してゐはせぬか、といふことにある。このことは一面からいへば、それ故に成功した編輯ともいへるが、同時に綜合雜誌としては失敗した編輯とも評される。社會の激流と嵐を窓越しにみながら、街の蠟山教室で講義を聽いてゐる感じ――甚だ微溫的な性格を私はそこにみた。

「改造」はこれに比ずれば、多少激動する社會の息吹きを感ぜしめる。それだけに統一を欠く点がないでもないが、時代感覺の上で「中央公論」よりは一歩前進した地点に立つてゐるやうに受けとれた。しかし、余りに期待をかけられると人間といふものは、何か愼重になり、良い子にならうとして常識的なことしか出來ぬものだが、これに似たことが、日本の知識人から期待を寄せられてゐたこの兩誌にも現はれてゐるのではなからうか。

そこへ行くと「新生」はその野性的な点がある魅力となつてゐる。その食慾の旺盛なことは實に驚くべきものがある。しかし、正直なところ、この雜誌は、終戰直後の混亂期に逸早く出現して知識人の知的渴望にこたへたところに沒すべからざる功績があつたのであり、今日では既に編輯上再檢討の時期に達したといへるのではなからうか。「もつと充實した內容のものを」といふことが、讀者の異口同音の希望であることをこゝに附加へておきたい。「世界」は一言にしていへば、余りにも岩波の世界であり過ぎるといふことだ。先に「中央公論」が蠟山教室だといつたが、それはともかくも社會の激流と嵐とを見られる場所に立つてゐるのにくらべ、「世界」は、外の眺望の割合きゝにくい象牙の塔の中の教室である、といつたら、いひ過ぎといはれるであらうか。

想ふに嘗ての岩波の世界乃至「改造」「中央公論」の世界が當時の社會に對して占めてゐた位置が、その後、社會の進展殊に終戰以來の社會の激動の結果、兩者間に進展の遲速に誤差を生じ、この誤差が綜合雜誌の進步的な傾向に一種の曖昧さを附與したのではなからうか。この点、綜合雜誌としては自己批判を峻烈に行ふに吝かであつてはなるまい。さうして私は、從來の綜合雜誌とは全く性格の異つた、例へば共產主義を基礎とした政治、經濟、社會、文化全般にわたつて網羅したやうな体系的な綜合雜誌が近い將來に出現していくのではないかと考へるが、どうであらうか。（一・二三）（筆者は朝日政經部員）

〝月光の科學〟の脱却
―我國自然科學界の進路を見る―
武田榮一

文化は國と共に榮へ、科學は亦國と運命を共にする。國に余裕出來て科學は芽生え、科學榮へて國運は伸展する。

我が國運は明治以來、一意興隆の道を辿り旺なる昭和の御代を迎へたのであつた。昭和の初期は日本にとつて實に勢最も盛なる時代であつたが此の時科學界も亦實に華々しい進展の跡を示した時であつた。此の勢が十年二十年の長い間續いたならば必ずや世界的にも有數なる學術の國となつたであらうと想像されるのである。惜しい哉、我々は此處に漸く科學國として一歩を踏み出した所で大きな難點に出會ふ運命を持つこととなつた。

我々は開戰に先立つて諸外國より學術雜誌の封鎖を受けた。是と共に研究室のアトモスフエアを表徴するかの樣なコロキウムは次第に途斷へ、平常なる研究への熱意は急速に失はれて行つた。そして軍事科學への協力と云ふ問題が科學者の間に論ぜられることとなつた。軍人は近代戰は科學戰なることを宣傳しつつも而も軍部以外の科學者の活用を考へなかつた。科學者の中でも愛國の士は押掛け女房的な態度で知り合ひの軍人との間に資格と費用と資材との個人取引きを行つた。それは恰も我々が今日農家と農產物の取引をなすと同樣無統制極まるものであつた。此の不合理と不明朗性とを打開して完全なる協力体制を作らうとする種々の企は軍部の頑迷さと科學者の組織力の不足との爲に長い戰時中を通じて終に實現を見なかつたのであつた。

兎に角日本は戰ひ、そして無慘にも敗れた。其の結果多くの蓄積を失つた。元來我國は資源に乏しい國である。唯國民は明治以來天皇政治の下に心を一にして勤勞に努めた結果、勞働を以て資本に化し資源資材、機械を蓄積することが出來、幸なる順境に棹して一意昭和の盛代を迎へることが出來た。之が我國に於ける資本主義の成功となつて現はれた。從つて昭和初期の日本人は自己の實力で生活を續け得たのではなくて約百箇年間の祖先の撓まざる勤勞のお蔭で豐なる生活の享受が出來たことを想ふべきであつたのである。我々は敗戰に依り現在是等有形無形の總ての財產を失ひ、國力は明治の出發点或はそれ以下にさへも引き戻されてしまつた。我々は今後我國の受けた此の本質的なる變質を常に深く自覺せねばならない。

日本の科學は是迄單なる文化に過ぎなかつた。或意味では藝術であつた。趣味娯樂でさへもあつた。少く共實生活には緣の薄い存在であつた。某帝大醫學部のY教授が嘗て私に次の樣な話をされたことを思ひ出す。『成程、我國には澤山の醫學者が居り澤山の研究が行はれ、學位をもつた者も非常な多數に上つてゐる、併し正直に言ふと明治以來それ等の研究が一つも行はれなかつたとしても今日の治療上には少しの痛痒をも感ぜられないであらうし又治療法に少しの變化も起らないだらう』と。

私は醫學界に於けるその言葉は私の關係する物理學界に於ても正しく適用されることを遺憾に思ふのである。是迄研究と云へば外國の論文に僅かな加筆をなすことを以つて第一とし、其處に生れる結果の多きを以つて優となした。外人が我が國の科學を評して『月光の科學』と云ふ有難からぬ優美なる名稱を與へた事を此の戰に當つていまいましくも痛感した次第である。海外からの知識の補給がなければ水をやらなかつた切り花の樣に直ちにしおれてしまふ研究態度は少く共自分自身の科學を研究して居る態度ではないと反省される。是では趣味として、娯樂として又名譽を得る手段として研究していると惡口されても一言もないのである。

◇

一般社會も是迄は科學者をそれ丈のものとしか待遇しなかつた。大學を出た研究者に與へる日給は六十円乃至七十円に過ぎないのである。否無給の者さへ相當數に上るのである。是等の實情から財產家の子弟が喜ばれ貧者の疎んぜられたことは當然の勢と云はねばならない。是はひいて大學教授研究指導者を富有階級に獨占せしめる結果となり、前述の研究態度と兩々相待つて科學研究の民主化から遠ざかつて行つたのである。

然し乍ら現在の日本には今迄の樣な上つ調子な科學の存在は許されなくなつた。日本人は皆困窮のどん底に喘いで居るのである。生活を續ける食糧も、衣服も、住居も、諸種の材料も不足だらけなのである。我々は此の狹い國土に溢れるばかり多數の人間を保持して行かねばならぬのである。此處に要請されることは筋力あるものは筋肉を以つて、知力あるものは智腦を以つて死の關頭に立つ日本民族保存のために全力を投入することではないであらうか。そこにこそ新日本の建設への途が開かれることを確信する。我々科學者も此處に於て果すべき大きなる役割を見出すことが出來る。重ねて言ふ『科學は一部好事家、富有者のみに委ぬべき玩具ではなくなつた。在來の科學に對する考へ方をすつかり改め、如何にして我が日本民族の生活を豐富にし且世界全人類の福祉に貢獻しうるかを考へねばならない』と。

又我々は一般社會の人々に對し『獨創力ある人々にはその人が如何に貧しく共安んじて科學研究に沒入出來る丈の生活を保證して呉れ』と要求する。さもなければ日本は筋肉勞働のみを主体とする能率の低い農民と勞働者の國、世界でも最下等な奴隸の國に脱落せねばならぬのである。狹い國土に多くの人間を包含せねばならぬ日本國民は是非共自然科學の開花を充分に取り入れた能率よき科學文化の國となさねばならぬのである。

科學者同志諸君。常に足を我が國土と國民の上に下さうではないか。そしてそこに我々の研究問題を採擇し發明發見の盛名をすてて實利を得ようではないか。

◇

さて戰爭を機にして以上の如く科學研究の目的を變更することを私は要請するのであるが現在の科學諸機關も脱皮すべき多くのものを持つている樣に思ふ。

今研究者を第一流、第二流、第三流の三段階に大別するならば第一流には帝大教授、主要研究所主任研究員等第二流には大學助教授、研究所副研究員等が入り第三流には大學助手等の大學卒業後未だ年若き人々が入る。此の中第一流の人々の中には昔は有能な研究者であつたが現在はそうでないと云つた人達の多くを含んで居る。第二流の人の中には病弱者の多いことが注目される。働くことの出來る肉体をもつた有能な人々は大學卒業後十年もたつても月給百五十円程度の待遇しか與へられぬ立場を棄てて工業技術研究に走るものが多い。殘された者は病弱の故をもつて大學研究室を療養所と心掛ける人々である。第三流の人々はやはり病弱の故に學校卒業後行はれた軍部の試驗に採用されなかつた人達である。年若く有能なる者はすべて軍部に入ることを强制された。そして今では在學當時に育まれた謙遜なる研究精神を瞬滅してしまつているのではないかと恐れられるのである。更に此處數年來の學生の素質は急速に低下して來たことを看過することは出來ない。以上考へ來ると研究者の現陣容を以てしては日本の將來に光明を齎すべき自然科學研究は余りにも貧弱である樣に感ぜられる。我々は心身健なる研究者、教育者の人事の養成の急務を感ずると共に研究者、教育者の人事の交流を徹底的に行ひ科學界に活潑なる空氣を漲らせる要氣を當局者に期待して止まない。

次に問題となるのは研究費と資材の問題である。戰前日本の研究資金は豐ではなかつた。そしてそれが日本全國に比較的に等分に與へられた。そこに不完全なる多くの研究室を持つ結果となつた。我々は今余分の金を與へられるよりは研究目的に必要なる機械器具と材料の給與せられることを望みたい。

更に科學研究を振興するためには學術都市、科學研究者の集つた都市の建設を提唱する。各種研究所、それを取巻く大學其他各種學校、研究者、教育者の住宅、機械器具製作所、既製研究用具陳列販賣所、圖書館、公會堂、公園等を包含した都市の建設こそは新日本の輝かしき將來を引き出す鍵となるであらうと考へられる。

幸にして我々は今科學者に與へられ樣とする數億円の金を持つてゐる。是は過去に於て日本科學者に與へられた最も大きな金である。之を如何に有效に使用するかは全科學者の價値と、ひいては日本の將來を卜する重大問題である。宜しく我が國情を顧みて前途を推敲し戰時中國民の汗をしぼつてなされた陸海軍への獻金に充分の意義の與へられんことを祈るものである。次に今回マツカーサー司令部の命令により資本から遊離せしめられたる財閥の有する資金について一言したい。それらの金は勿論財閥が正當なる方法によつて獲得したものに相違はないが元々は國民全体の働きによつて得られた富の分配方法の如何によつて財產家の懷に入つたものである。それ等の富を國民の有效なる使用に委せるならばそれは又日本民族の幸福であり意義ある金の使用法であらうと思ふ。それ等の人々の理解によつてその一部を科學研究に利用する機會の與へられることを熱望する。

終りに日本科學界のために大きな働きをなした理化學研究所の存立が理研財閥解体と關聯して不安定になつてゐることである。近年實狀にそくした陶汰の不足から多少だれ氣味にあるとは云へその存在の意義は極めて大きい。我々は此の機會に出來るだけ清算して再び大きな働きをなす日を期待したいものである。

もう一つ日本數學物理學會は今度日本數學會と日本物理學會とに分離することとなつた。數物學會の共同生活は元々經濟的な立場から選ばれた方法であつて若し獨立した經營が許されるならば當然分離すべきものであつた。學會は主として科學者の研究報告の刊行を任務として居り之が研究者の乏しい收入から集められた會費によつて運營されて來た。此の樣な有意義な事業に對して國家は何等の保證をもなさず財閥も又興味を持つて居らぬ。諸方面よりの考慮の拂はれんことを祈つて擱筆する。（筆者は東工大助教授）

戰爭責任
八木秀次

聯合國側では戰爭犯罪容疑者を指名してこれを裁判に附しつゝある。そして戰爭犯罪者には戰爭を起したものと、戰時中俘虜虐待等國際法に反する殘虐行爲を行つたものとの二種を含むといはれる。

ところが國內では戰爭責任追求論が盛に行はれ、議會の決議もあり民間にも戰爭責任者追及の聲が高い。謂ふところの戰爭責任が具体的に明瞭でないため、軍人、官吏、議員、事業家の辭職引退を求めるかと思へば、戰爭に負けまいと努力したすべての國民を責任者と呼ぶむきもある。教師、町會役員、防護團員など皆俎上に上される。戰時中に行はれた神がかりや不合理の言論に對して鬱憤を晴らさうとする感情の發露が多いやうである。

日本を敗戰させまいと努力する國民全部は聯合國側から見れば敵であつたに相違ない。その國民全部を責任者といふなら一應理解できる。その國民を同じ國民の中から責任者責任をとれといふことは聊かわかりにくい。

他方、敗戰責任者といふものがあり得る。國をして敗戰せしめまいと大いに努力したに拘らず、悲慘な結末となるのを防ぎ得なかつた者、及び、敗戰を避けるための努力を少しもせずして、戰爭には反對だ、戰爭努力は御免だといつて慘敗に終るまで傍觀した者、卽ち日本人の大部分のものは皇祖皇宗に對し、聖上に對し、日本民族の祖先に對し、子孫に對して敗戰責任者である。重要な地位に在つた者ほど日本民族に對する敗戰責任は重い。また戰爭傍觀者も子孫からは敗戰責任者と見られるだらう。

×

聯合國側から見れば戰爭のために奮鬪努力した日本人はみな憎むべきものだつたとしても何の不思議もない、これを同胞の側から見れば、大多數のものは國家の總力を擧げて聖戰の目的達成に遺憾なからんことを期せよといふ大命を畏こんで大なる犠牲を忍んだわけである。だから子孫から見れば先祖はよく骨を折つたものだとだけは認めるだらう。同時にまちがつた戰爭をして國民を永く惑はせたことを恨みもするだらう。

これに對して反戰的、傍觀的、降伏主義者は聯合國側から見れば憎むべき存在ではなかつたであらう。しかし日本國民とその子孫から見れば恨めしい人々と思はれてもやむを得ないであらう。

國民の大多數は敵から見れば戰爭責任者であり、味方から見れば敗戰責任者だといへる。だが戰爭に最も冷淡だつた人々が大いに努力した多數の同胞を戰爭責任者として問責することは解し難い。これと、戰爭犯罪者を責任者と呼ぶのとは同一事ではない。

戰時わが國の慘敗を防がうとする努力を逃避し、戰爭反對だ、敗けるにきまつてゐるとし、敗けるがいゝと袖手傍觀した少數者だけが今日わが國を背負つて立つべき資格者であつて、戰爭に强く働いた者はみな隱退すべきものだ、といふ意味の論法が頻りに現はれることを不思議に感ずるのである。

戰爭責任の意味を明確にすれば敗戰責任者の意味を明確にする必要がある。責任の意味を明確にせずして漠然と決議などする人たちが、眞に責任を糾す意志のないまやかし者であると思はれるのは當然であらう。（筆者は前東工大學長）

經濟學

〝神話〟の克服へ
民衆の一員としての自覺と自信
內田義彦

一

牛乳は一体凍るものだらうか凍らないものだらうかといふことが新たに問題となつたとして、それを先づ冷して見るかはりに古典書の何處かから牛乳の概念規定を抽き出して來て、牛乳なる特殊概念は凍るといふ概念と本質上矛盾するといふ論證をして凍ることを否定したとすれば人は笑ふだらう。論證にいかめしい用語を用ひたりすれば一層滑稽の度がひどくなるだけに過ぎない。今日では少くともこの領域ではこの種の屁理窟は學問として通用しないのである。

ところで社會科學の領域ではどうか、例へば今日本の國民經濟について同じような答が與へられたとする──勿論その內容に相應じて嚴格に學術用語のみをもつてゞある。その時人は一層笑ふであらうか。

あつけに取られてゐる普通人はしばらくおく。學會の內部とか周辺部とかでは不思議に人は笑はない。ずり落ちさうな學問的教養の借り着を身に纏ひつけて戰々兢々たる知識人は、笑ふにしても素早くあたりを見廻して和戰両樣の構へを作るだけの愼重さを決して忘れないだらうし、專門學者に至つては恐らく終始嚴重の態度を崩さないであらう。實際メフイストフエレスも言ふ樣に學者とか天使とかは笑ひを忘れると既に久しい存在であるやうだ。否それはもとゝその本質が笑ひと矛盾する存在なのかも知れぬ。──何故その本質が笑ひと矛盾するか？他ではない。學者自身そういふ屁理窟の製造人であるからだ。

「我々の經濟史學は第四の批判的歴史たることが望ましい。それは過去を肯定すると共に否定する歴史である。後ろ向きでもあり前向きでもある。現在より過去にさかのぼり更に未來に向ふ。事實を事實として剖檢するが同時にそれを過去の記念碑にもし未來へのかゞみたらしめんとする。この意味で經濟史には新しい神話の要素を加へんとするものである。「げに神話なき民族ほどあはれさびしいものはない」。これは假空の文ではない、一年程前に「歴史的現實への凝視」と題し某帝大助教授が公表せられた文である。而も筆者は觀念的たることをもつて自他共に許す特色としてゐる所謂政治經濟學派の人ではない。筆者が强調して居るのは「經濟科學としての經濟史學」樹立の要なのだ。

そして此の經驗的經濟史學者は「事實に徹せんとして事實に囚はれる」立場を克服し、「ともすれば煩瑣に迷はされる」ことなく又「刻々の情報」に一喜一憂することなく「現實を理解」して大東亞戰爭完遂に協力することを可能ならしめるべく新たなる立場から戰爭經濟史の研究が行はれつゝあることを報告してゐる。次の如く高らかに叫んでゐる。「博搜、涉獵せる史料、原典の集積と考證、嚴正なる史料批判の上に、制定される適正穩健なる成果は期して待つべきである。而も冷たかるべきメスに溫かき情熱を傳へつゝ研究者の腕は戰爭完遂への感動にみちあふれてゐる。それは大東亞戰爭に對する香りも高い新しい意味での神話の創作であるとも云へよう」「げに稽古は過現來を照らす」」──と。

かく如きものが我國經濟學の姿であり、我國の學界、マルクシズムの誤謬と非學問的な性格についてはあれ程嚴格にその學問的潔癖を誇り學界の純粹を擁護した筈の我國の學界はかくの如き屁理窟を學問として通用させて來たのである。

二

屁理窟を屁理窟として笑ふ、それは容易なことではない。自然科學の領域に於てもそれは實に數世紀に亘る鬪爭、自然と人間とに對する徹底的な鬪爭の裡に始めてかち得られたものであつた。言ふまでもなく經驗の蓄積が自動的に學問を作り出したわけではない。ベルナールも言つてゐるやうに理性を持つた人間のみが經驗を經驗として受け入れ得るものなのだから理性を持つた人間とは自然の示すところに從ひうる謙虛な心を持つた人間を指すのであるが、それは又自然に對して、あらゆる人が平等だと主張する矜持を持つた人間たることを同時に要求するのだ。それは權威からの解放を意味するであらう。經驗とか實證がそもそも證明力として働き得る爲には權威に對する盲目の屈從から理性が解放せられてゐて始めて可能のことなのだ。アリストテレスの權威が精神の中で支配をしてゐる時如何にしてこれあれの事實の觀察が實證として、アリストテレス學說に對する誤謬の證明力たり得るか。又法王の權威が全天をして地球を巡らしめてゐる時、而して法王の權威が不可謬のものとして、あらゆるものに超絕した力を認められてゐる時如何なる實證が地球をして太陽の周囲を巡行せしめ得るか。實證が實證力を持つと云ふこと、それは精神の領域に於ける支配の轉換を意味する。單に學問の領域に於てのみではない。文化の、イデオロギーの全領域に於ける封建的權威の否定によつてのみ始めてそれは可能になるのだ。

西歐に於ては產業資本は民衆と共に封建的勢力に對し果敢な鬪爭を行ひ、自らの支配を確立した。それは西歐近代社會の誕生であり、民衆の人間としての確立そして又封建的收取と浪費の「文化」に對する新しき民主々義文化の生誕であつた。そして又この生活の全領域に於る鬪爭の一環として民衆の學問としての近代科學が打ち建てられたのである。それはかゝるものとして學問の領域に於る鬪爭であり、最早や理性たることを失つた封建的無駄の搾取者の、權威を基礎とし又之を基礎づけんとする屁理窟の學問に對する作るもの、商品と歴史とを作るものとしての民衆の、理性と實證との上に立つた學問の鬪爭であつた。屁理窟に對する氣兼ねのない笑ひ、これは自らの基礎に立ち得るもの、自らに信ずるところのもの、最早や封建的權威と屁理窟の「無用の用」に依存することを必要としないものの持つ笑ひである。そして又スミス經濟學はその鬪爭と笑ひとにつながつてゐる。

我々がスミスの原典に接する時、如何に彼が封建的理屈に對し常識の上に立つて學問を立てゝゐるかを知る。これから經濟學を學ばうとする諸君は色々の本を讀む前に先づ國富論の第五篇第一節にある「少年教育の經費について」といふところを讀んで下さい。そこで諸君は封建的學問制度のからくりを知ると共に、何よりも「人なつこい」スミスの民衆と民生に對する心の溫い信頼と民衆の學問としての自らの經濟學に對する快い自信に接して、諸君自らの胸の中に長い間の封建的教育でおさへつけてゐられた五分たの魂が動き出すのを感じるに違ひない。それはホモ……何分である。封建的虛構の丸襞に肉体的に反撥せしめる何かである。そして諸君は自分の實感の上に色々の學說を批判し、笑ふべきものを笑ひとるべきものを攝取するの自信を得るだらう。そこに諸君は諸君の經濟學の出發点を得る。そしてそれが古典としてのスミス經濟學の本質であり、それこそが歴史學派の經濟學に缺けてゐるものであつた。

「旧秩序」に對する新秩序の利益を代表せずして、新奇蒔き直した、旧秩序內部の利益を代表してゐた」といふ事情、これがドイツの產業資本をして封建制度に對する鬪爭を中途半端なものたらしめ自信なき「呪はれた老ひぼれ」たらしめたものであり、自ら呼び求めた合理主義の地盤から目を背けしめたのである。そしてそれが又ドイツのスミスをしてドイツのスミスたらしめ、つまりはスミスたらしめなかつた事情である。而して我國の資本の性格が如何なるものであつたかは諸君が既に見た通りである。

三

「ローマの門を出てカンパニヤの野へ、山々の方をさして巡禮に出で行く人は、總ての壁と塔、すべてのドームと尖塔その悉くが次第におぼろげに影をうすめて消え去り行くのを見る。果ては遂ひに永遠の都が今はただ一つのかたまりに過ぎざる如くそこに横はるとき、そこに一つ巨大な聖ペテロ寺院のドームが、万象を壓して高く聳えてゐる。我々にとつてゲーテとの時間的へだたりもまたかくの如くである」こういふ美しい言葉でヴインデルバントはそのゲーテ論を始めてゐるが裏切られた民衆が廢墟と飢餓の東京をあとにするとき彼等の眼に殘るものは何であらうか。

我々の經濟學は如何なるものたるべきか。諸君が自ら民衆の一員として自らの生活をまもるために生活のあらゆる領域に於て封建的勢力と鬪ふとき、そして此の全領域での鬪爭の一環として、諸君の專攻たる經濟學の領域に於ても亦行はれてゐる非合理主義の抹殺のための鬪爭に、諸君自ら民衆の一員たるの自覺と自信を持つて參加するとき、そこに諸君は始めて學としての經濟學を確立することが出來るだらう。

"DEMOCRACY"
唯一の民主主義强力機關誌
日英兩文の外交政治經濟誌
漫畫・寫眞の精粹を滿載！
宮鳩鐵治 伊藤好道 責任編輯
東京京橋區銀座西八ノ三 發行所 文華社 振替東京一九四九三四番
二月号二月一日發賣（4.50）
『デモクラシー』

中央公論
（二月號・二月五日）
丸ビル・五階 中央公論社
★自主性の回復 清水幾太郎
激動期の日本經濟 杉村廣藏
地主の實體 東畑精一
・米國勞働運動の展望・
★法廷に闘へる自由主義 河合榮治郎
政治と文化 藏原惟人
福澤諭吉（人と思想） 羽仁五郎
三月事件とその波紋 岩淵辰雄
★小說 永井荷風・平林たい子

綜合雜誌 世界評論 創刊號 ―發賣中―
世界評論社 東京都日本橋區江戸橋一ノ十二番地加賀ビル
A5判・一二〇頁・定價三・〇〇 送〇・一〇 豫約註文 半年一八・六〇 一年三七・二〇
――主要內容――
▽世界史の動向と日本……細川嘉六
▽新憲法と民主主義の基本問題△……堀江邑一
[illegible]
▽ソヴエートの天皇制批判
▽ロシアデモクラシーの勝利
▽中國共產黨の勝利と當面の任務
▽中國の內外政策
[illegible]

新綜合誌 言論 創刊號 發賣中 二円卅錢
人民の立場から
皇室財產の分析・內野壯兒
言論民主化鬪爭・鈴木東民
★侵略戰爭の主体……具島兼三郎
★民主革命を阻むもの……白木正之
★[illegible]……松本健二
★婦選の次に來るもの……岩本あき子
日本よ立ち上れ・馬場恒吾
近衞公と日米交涉・岩淵辰雄
☆原稿募集 ☆民主々義文學の方向・十枚 ☆生活周辺の封建性・五枚
小說・隨筆・詩・隨想
高山書院 東京都小石川區

綜合雜誌 新人 創刊號・價二・五〇
特輯・日本の出發
國民性の改造……清水幾太郎
日本民衆の生活……宮本顯治
日本經濟の復興……美濃部亮吉
世界への道……渡邊慧
日本人の性格……杉山平助
解放の文化……中島健藏
政治家と道德……水谷長三郎
[illegible]
小學館 東京神田一ツ橋 振替東京一五四七〇

文藝雜誌 人間 二月号
文化國家への道……柳田謙十郎
二十世紀思想としてのアメリカ思潮……清水幾太郎
特輯 アメリカ思潮
プラグマテイズムと日本文化……三枝博音
プラグマテイズムと人間の教育……宮原誠一
アメリカ思潮と文學……中野好夫
アメリカ文化における宗教……西川正身
アメリカ人の性格……西村孝次
（評傳）爲永春水（五十余枚の力作）……永井荷風
盲目……武者小路實篤
まりあんぬ物語……中里恒子
近代悲傷集（詩）……釋迢空
姥捨……里見弴
（定價四・五〇 直接豫約概算三〇円）
鎌倉文庫 東京日本橋白木屋二階

生活と文化
二月號・近日發賣
☆樂しい、生活の爲の明るい感覺を持つた新しい家庭雜誌です。
銅像の行方……大宅壯一
愛のモラルに就て（ワンダーリシレフスカヤーの新作から）……福井研介
私達の立場……平林たい子
ソ聯の女性生活……赤松俊子
小說「眞珠の胎」……間宮茂輔
[illegible]・たべもの・虫と小動物・新東京名物・[illegible]（米誌より）
映畫・美術界・家庭醫學・服裝・其他
五十錢 △一ケ年分前金料[illegible]（送料込）
生活文化社 東京都麴町區內幸町大阪ビル新館

週刊 新日本
第十五号 價八〇錢 一月十九日号 年四〇円
☆（主張）開拓者の精神 ☆（論說）進步的勢力に與ふ・破壞の衝動より創造の衝動へ ☆（國際展望）世界平和への新春 ☆（文化時評）東京三界―武田麟太郎 ☆（エツセイ）敗戰以後―[illegible]
日刊 新日本政治通信
內外政治情勢に對し、嚴正的批判を以て、變革期日本の指標たらしめんとする獨自の日刊通信。會員に速達便を以て配布。
會費 一月五十五円 一年六〇〇円
東京都京橋區銀座西七 振替東京一九四八四九番
新日本社

思潮 創刊號
定價三円・豫約半年十八円
日本文學私見……阿部次郎
兩思想家要失の文化史的意義……永田廣志
北村透谷論……小田切秀雄
特輯・新文化發足への省察と展望 羽仁五郎・古在由重・林健太郎・今野武雄・中島健藏・窪川鶴次郎
文藝時評……岩上順一
コルウヰツの死……赤松俊子
[illegible]
昭森社 振替東京四六九六番

教養欄

兩者の渾然一体
米國の教育及び哲學について

稻毛金七

敗戰國日本が戰勝國米國に學ぶべきものは少くないが、教育、哲學も亦その主要なものであらう。日本復興の爲[illegible]に存し、且つ其の主要方途が教育であると共に、件の文化國家の基調が民主主義であるべきであるのに、民主主義はやがて米國の哲學だからである。

思ふに、米國文化の一特色は、教育と哲學とが渾然一を成してゐるところに存する。而も米國の教育と哲學とが渾一する所以のものは、兩者の基調が等しく形式的には、主行主義又は實用主義であり、實質的には民主主義であると共に、「哲學が實行的方面に向ふと何時も教育論となる」といふデューイの語の如く、哲學が教育の基礎を形造つてゐるためである。そしてこれは、「教育哲學」が米國に於て最も早く成立したことに徵しても明かである。但し、米國の教育が哲學を基礎とするといふことは、米國の教育が其の理論的方面が其の實際的方面にまさつてゐるといふことではなくて、寧ろ理論と實際とが渾然統一してゐるといふことである。米國の哲學は、其の起源に於ても其の本質に於ても等しく實際的又は實驗的だからである。然り、米國の教育及哲學の本質は、一言に實際性、實驗性又は實用性に存すると稱することが出來る。

第一に、これを教育について見るに、米國教育の目的は畢竟「役に立つ人間」又は「働きのある人間」を養成することに存する。そしてこの目的を達成するためには被教育者をして最も十分な意味で實生活又は活社會に適應せしめることが必要である。就學に際し嚴格な適性檢査が行はれるのも、學校生活をして出來るだけ社會生活に近似せしめ、被教育者をして出來るだけ社會生活に接觸せしめるやうにするのも、學校教育期間を短くして出來るだけ早く實務に就かしめようとするのも、休暇を長くして其の間勤勞に從事せしめたり活社會に接せしめたりする機會を出來るだけ多く與へるやうにするのも、學校の種類の多いのもさては、學校行政上地方の自治を重んずるのも、等しくこれがために他ならない。

斯くの如き米國教育の目的は當然、其の方法を規制する。即ち、米國教育の方法は、一言に所謂「爲すことによつて學ばしめる」主行的自由主義である。米國の教育に於て、被教育者の自由・自律・自治・自發活動・創意工夫等と共に實行・勞作・實驗等が重んじられるのも、學校に於ける自學的設備即ち圖書室・實驗室・作業場等が整備してゐると共に社會に於ける自學的設備即ち圖書館・博物館・新聞雜誌閱覽所等が發達し且これらが教育に活用されてゐる學校と各種の工場研究所等とが密接な聯絡を保つてゐるのも等しくこれがためである。

斯の如き米國教育の實質的特色は民主主義である。そして米國に於ては民主主義と教育との關係は相關的である。即ち、民主主義は教育を重視すると共に、教育は民主主義を發達させるのである。

蓋し、『民主主義と教育』の著者デューイに從へば、「民主主義は單なる政治上の一樣式ではなくて社會生活又は共同經驗の一樣式であり、且共同社會の範圍の擴張と個人的能力の變化發展の自由とを特色とし、從つて、一方に於て、個性の自覺が進展し、他方に於て、共同利害の範圍が一旦擴張した後、これを維持し伸展し行くには、思慮ある努力が必要となり、且斯くの如き社會に於ては孤立的社會の分立を許さないために是非共各人平等の條件を以て容易に教育的機會を獲得せしめるやうに努めなくてはならないと共に、階級制度の殘存する社會に於ては、單に其の支配階級の教育のみに專念すればよいのと異なり民衆の教育をして各自の獨創力と適應性とを發揮せしめるやうに努めなくてはならない」からである。

別言すれば「民主主義社會の標準は各自の能力をして自ら其の職業を選擇し且つこれを遂行する實力たらしめるまでに訓練することを要求するものであるが、この原理は兒童の本具的能力の訓練を基礎とせず、只兩親の財產や社會的地位のみを標準として選んだ一家の職業に、豫め適應せしめようと教育することによつては其の眞義が沒却される」からである。

更に別言すれば、「民主主義的社會が近親的乃至理想的意義を有するものであるならば一面それは凡ての人々に社會奉仕を要求すると共に、他面、凡ての人々に各自獨特の人格的性能を發揮する機會を與ふべきであり、從つて社會的能率と人格的發展といふ一個の教育目的を分離することは民主主義的社會の致命症だ」からである。

斯くして、米國に於ては、被教育者の人格・性能・獨自性乃至個性が重んじられると共にその自學・自修・自治・責任が尚ばれ、從つて教育の機會均等が要求され、男女の共學が實施され、職業教育が盛行するのである。デューイが「眞の自由とは個人をして團體のために彼獨得の貢獻をなさしめ且社會的指導をして個人的活動の威壓的制御たらしめず、個人の心的態度をして社會的ならしめるやうな團體的活動に參加せしめることであり」「自由とは本來學習における思惟のなす役目を意味し、知的創意獨立的觀察・思慮を養はせる發明・結果の先見・結果に對する巧妙な適合を意味する」とし、「職業は第一に個人の顯著な能力と社會奉仕との平衡を保たしめ唯一のもの即ち顯著な能力を以て社會に奉仕する所以である」としてゐるのは等しく米國教育のこの特色を裏書するものといはなくてはならない。

◇……

第二に米國の哲學について見るに、米國哲學の特色は、形式的には哲學が廣義に解されるところに存し、實質的には、主意主義的・主行主義的・實際（實生活）主義的・實用主義的・相對主義的・經驗主義的機能主義的・人本主義的・民主主義的なところに存する。

先づ、米國哲學の形式的特色について見るに、米國に於ては、「哲學」といふ語は、獨逸や佛蘭西や日本に於けるが如き狹義のもの即ち科學及藝術思想と區別されたものではなくて、大まかに、學問・理論・原理・思想・人生觀・生活態度等と同義に解される場合が多く、從つて其の內容も、嚴密な意味の學術性の貧弱な常識的・通俗的・大衆的なものが少くなく、それだけ解り易くもあり又活用即ち生活化に便利でもある。

米國に、特に優れた專門の「哲學者」が少いと共に、哲學が一般的教養の手段及教科として一般人の關心の對象ともなり又相當低い程度の學校に課せられたりするのもこれがためである。そしてこれは、ウィリアム・ジェームズが其の名著『プラグマティズム』の開卷第一頁に於てチェスタートンの語を引いて、哲學は、客の鑑別上ホテルの主婦にも必要であるとしてゐることに徵しても明かである。

次に、米國哲學の實質的特色について見るに、米國の哲學は、一言に、反主知主義又は非合理主義であると共に人本主義又は民主主義である。これは、米國の哲學が反主知主義又は非合理主義だといふことは、米國の哲學が知識論や認識論を缺如又は輕視するとか、反認識論的であるとかいふことでも道理や理論を排して科學と矛盾するやうな單なる常識論や信仰や所謂哲學思想や淺薄な人生觀だといふことでもなくて、寧ろ米國哲學の知識論乃至認識論の基調が反主知主義的又は非合理主義的即ち主意主義的・主行主義的・實際（實生活）主義的・實用主義的・相對主義的・機能主義的だといふことである。

事實、米國の哲學が認識論や知識論を重要視してゐることは米國哲學界の双璧たるジェームズ及デューイの哲學殊に前者に徵して明かである。ジェームズの哲學は、一言にプラグマチイズムと稱せられるが、其の名稱も內容も等しく寧ろ認識論的乃至知識論的である。

即ち、ジェームズに從へば認識又は知識は其自身獨立の價値を有するものではなくて、實生活の手段たるところに價値が存し、從つて眞理＝眞僞の標準は實生活に對して役立つか否かといふことであり、おのづからトルース眞理とユースフルネス實用とは同義である。然るに實生活は人間の生活意志を助力とするものであるが故に斷えず變化するものであり、從つてこれを標準とする眞理も亦斷えず變化しなくてはならないしおのづから眞理は相對的であり經驗的でなくてはならない。そして茲にジェームズのメーキング・オブ・トルース眞理作成論のある所以が存する。而もこれはデューイの道具主義に於ても亦略同樣である。

併しながら、米國哲學の本領は勿論廣義の人生觀に存する。但し、これは米國の哲學には形而上學を全然缺如するといふことではない。事實、米國の哲學には、英國の哲學と脈絡貫通する一種の形而上學即ち人格的唯心論及新實在論があるが、而もこれらは畢竟認識論なるを免れない。そしてこれはジェームズの哲學に於ても亦同樣である。蓋し、ジェームズの所謂「眞理作成」論は「實在作成」論を根據とするものであるが、而も彼の所謂實在は、超越的實在ではなくて畢竟、經驗世界であり人間世界だからである。

但し、ジェームズは、其の晩年に於て次第に信仰又は宗教に對する關心を深めることとなり從つて其の學說が神祕主義的となり、彼の主張たる「徹底的經驗論」と矛盾する點を生じたが、而もこの方面の代表作が『宗教的經驗の種種相』である點から見れば、ジェームズは結局經驗論者たるを免れない。そしてこの點に於てはデューイの方が一層純粹である。

これを他面から見れば、米國學者の一特色は人本主義である。世には、民主主義を以て米國哲學の根本特色とするものも少くないが、これは必ずしも妥當ではない。民主主義は寧ろ人本主義を根柢とするものであり隨つて哲學の原理としては第二義的なものだからである。そして謂ふ所の人本主義は認識論上の經驗主義と表裏するものであることはいふまでもない。實在を人間の經驗分內に限り、超越的神祕的絕對的なものを排するところに人本主義の眞髓が存するからである。

繰返していふ。民主主義は、本來米國哲學の第二義的原理である。併しながら米國哲學の基調が實踐的である點から見れば、民主主義の實用的價値は人本主義によるといはなくてはならない。少くとも、今日に於ては、民主主義は米國哲學の基調となり第一原理となつてゐる。そしてこれは、米國の哲學が最近益々實踐的になりつつあることの證據である。別言すれば、米國哲學の中心點が認識論乃至知識論よりも人生論特に政治や道德や教育の方面に移つた證據である。そしてこの傾向は將來益々顯著有力となるであらう。

本來人間本位主義であつたヒューマニズムが道德的及政治的色彩が強くなるに從つて人道主義となりつつあるのはこの間の消息を物語るものといはなくてはならない。而も人間本位主義たる米國の哲學が、單なる民主主義即ち人格主義・個性主義・自由主義に止らず、正義、人道の支持即ち全世界の平和の確立文化の發展並に全人類の福祉の增進の原動力となる時に、始めて其の眞價を發揮することが出來るであらう。（筆者は早大教授）

文化

人民の批判に堪へる精神を
―ブルジョア民主革命の先驅者へ―

高橋實

空疎な、強制された「總力戰」「一億一心」が、寒々と東北の「忍苦の農民」の空を吹きわたつてゐたころ、私は診療所の醫者をしてをつた。ある農家を往診したとき、その日は息子の戰死に町からえらい司令官が悔みに來てくれた日であつた。もてなしの後に醉くわれに歸つた主人は、私を待構へたやうに息子の遺書をとりだしてくれた。瀕死の床で認めたらしく、故鄉の國民學校のやうな兩親の家屋に收容されてゐること、墓で亡き母に會つたこと、親戚のところでおはぎを食べたときが想ひだされること、熱に浮かされたやうなたどたどしい文章であつた。主人も私も爐端で、焚火のどんどん燃えさかるのをみつめながら暗澹とした。戰死者の正直な感情に觸れたとき程戰爭の憎まれたことのなかつたことを想ひ出す。

また、戰死者の檢屍に立會つたこともあるが、それは家族の多い家だつた。只一人の働き手である主人が、病妻と老母と澤山の子供をかゝへて小作と日雇ひに必死の力をつくしてをつたのだが、あるときふと魔がさしたか、ゴム長を盜んだのである、このことが發覺しさうになつたとき彼は、三人も自分の息子を戰地にだし軍事扶助を受けてゐるのに、顏向けができないと一途に思ひつめて、いく度か失敗したのち、井戸に投身自殺をとげたのであつた。深い暗い堀井戸の底に、二本の足の裏が白く浮んでゐたのを思ひ出す。彼には自殺をする權利しか殘されてをらなかつたのである。此の樣な例はまだ澤山あつた。

そして私はせめても、抑壓下の農民にさゝやかな贈りものをしようと「東北一純農村の醫學的分析」といふ社會衞生學的な仕事を發表したのであつたが、スターリングラードでファッシズムの敗北が開始されたとき、治安維持法に觸れるとして、二箇年近く留置所と監獄に收容されたのである。そして人民の側に立つ仕事が如何に暴逆な抑壓を受けるか身を以て再び知らされたのである。だが天皇の御名によつて投獄されたのは私ばかりではない。多くの投獄された人々と共に投獄されない農民は矢張り天皇の御名によつて「勝ち拔く」ために供米や薪炭の供出や、息子や親や夫の供出に、人的資源の供出に驅り立てられてをつたのである。

供米督勵行脚の警察署長と、翼贊壯年團長と、役場のえらい人と、農業會や營林署の「頭立つた人」や校長や駐在所の巡査が、その晩、民衆にはすでに閉されてあつた村の料亭で、飲めや唄への大騷ぎの場面をも見て知つてゐる。これらの事實をいやといふ程みせつけられた農民が、敗戰後、米をべラ棒な値で横流し、それよりも更に高價な魚のサシミをちよつと得意さうに食膳にのつけたところで、それは戰爭中の抑壓から解放された小ブル的農民のさゝやかな祝宴でなくて何であらう。寄生的半封建主的土地所有により、獨占資本家の利益のために今日の零細經營をあづけられ、更に軍國主義天皇制により二重にも三重にも收奪され、その收奪から必死になつてしがみついて來た。五段步、一町步の土地の王者としての愚かな農民でなくて何であらう。

だが、農民はいまや長いあまりにも長い封建性の抑壓から眼覺めつゝある。ある農民は生產の增强以外に眞の幸福のあり得ないことをいろいろの角度から考へはじめてゐる。小作料の徹底的減免や、即時金納化が、正しい要求であることを知り、もつと進んだ農民は耕作者に土地を與へよと要求しはじめてゐる。不在地主が耕作權をたくみにとり上げて、遲れた農民に、ドブロクを飲んでばかりも居れないぞと自覺の機會を作つてくれてゐる。復員者の三分の二は歸農をするか、潛在失業を余儀なくされてをるが、だが僅かの人々は、北海道の炭礦爭議や、東京の交通勞働者の爭議の輝しい發展を聞いて、「一般人民の問題を、國家的問題を、吹雪に閉された爐端で眞劍に考へはじめてゐる。官僚的農業會を破壞して供米のための民主的組織を作ることを望み、そして遊休山林原野を機械力で開墾し、それを復員失業歸村者に與へよと要求しつゝある。

△……

さて私は戰爭中、いつ動員され屍を戰場にさらさなければならないか判らないのに、それでも尚、農民の困難な問題の一部だけでも何とかし、机の上ではなく紙の上ではなく、實際仕事をして解決しようとして、共同作業や、農繁託兒所で、眞劍な活動を續けた、眞に農民より敬愛された人物を澤山知つてゐる。社會科學的な眼―それは講壇よりは既に得られなくなつてをつたが―を知らず知らず磨かれていつた農村鄕土生活調査團のあつたこともよく知られてゐる通りだ。

しかしそれらの人々の中、學生すらも、体驗によつて初めて具体的に知られる狂暴な軍國主義的警察官僚の手によつて、多くの人々が留置所に、牢獄にブチ込まれ、ある學生は「こゝではじめて大學に來た效ひがあつた」と鉄の意志を鍛へられ、またある女子の大學生は刑務所に移されるとき、留置所の壁に「Studieren, Propagandielen, Organisieren」と大きく刻りつけて去つた。これらの事も漸く知られ始めてゐる。

これらの人々は、終戰後直ちに更に力を盛ることのできる人々である。

長い獄中にあつた人々はいまや全世界の人民大衆の廣く深い心情にさゝへられながら、ファシスト、社會ファシストの陰謀と鬪ひをはじめたのである。これらの眞の人民の指導者が、歷史的にも、國際的にも、澄みわたつた大空の心を心として、果敢にブルジョア民主革命の鬪ひを開始したのである。吾々學徒も、學徒としての責任と矜持を保つて、農村の遲れた、否天皇制大地主により、隅の隅まで人民的自由と權利を奪はれてゐる人々の開眼を圖らなければならないのである。

だが、一九四五年八月、中國共產黨第七全會で、毛澤東も云つてをるやうに、農民の政治意識を高めるために村に赴く都市有知識分子は、農村の入り組んだ、一見捉へどころのないやうな、遲れた個人主義的經濟の特質のなかなか把握できにくいことを知るだらう。だが、この特質をよく理解するのでなければ、土地問題の觀察はいつも間違ふであらう。村で仕事をするとき、都會で働き、生活をしてをつたときの考へ方をもち續けやすいものである。だがさうであれば結果は村での實際活動から遊離することになり、農民と共に行くことは決してできないであらう。

このことはただ教育と研究で克服されなければならないのである廣汎な誠實な革命的進步的有知識分子は農民と結ぶ必要を痛感しなければならない。農民は彼らを必要としてゐる。彼らの助力をまつてゐる。だからこそ熱情的に農村に入り込むべきだ。中國の學生は學生服を脫ぎ、普通の服をき、そして全てをもつとも單純な端緒からはじめてゐる。われわれは彼等の要求を知らなければならない。農民の自覺を助け、農民が民主主義革命の重要な役目を果すやうに彼らを組織しなければならない。そして土地問題の人民革命の鬪ひを遂行しなければならないのである。

△……

斯かる鬪爭に役立つ科學的認識を、私たちは農村の現實から學ばなければならない。前にも觸れたやうに、農村には澤山の困難が集積してゐる。肥料、農具、作業衣、塩に對する要求は深刻である。民主的供米の問題があり、自主的農民組織確立の問題がある。しかも斯かる問題の人民的解決なしには、農民の幸福の一切はあり得ず、殊に醫學徒の望む保健的生活の幸福も達成されないのである。

道は遠くとも、食糧飢餓にむごたらしく苛まれてゐても、日本を國際的民主運動の激動の中に躍りなく進め、敗戰より再建するために既に未來は明るくわれわれの前に開かれたのである。再び暗黑に閉ざされることのないように全力を盡すときは今である。まさに私たちこそは未來の擔ひ手でなければならないのだ。正しい線に沿つて、地味な仕事を一步一步休まず急がずに進めながら、再び强い科學的精神が全國に滿ち溢れるように、私達は大きな責任の一部を分擔しなければならないのである。

こゝで具体的には如何にはじめなければならないのであらうか、裏日本で働いてゐる私たちはある金屬礦山の飯場で働いてをつた鮮人勞務者約二千名の中、四二パーセントがこの一年間に榮養不良と肺結核で死亡してゐる勞働階級にとつて忘れることのできない一事實に精密な科學的分析を加へ、遲れ馳せながら最も正しいと思はれる對策を具申し、更に海外同胞への民主的友情に訴へることをし、彼らの故國に歸るのを見送つた。いま兵士であつた復員失業者の尨大な人々の健康診斷、民主的自營の調査を行ひつゝ、この人々の幸福を圖るための仕事をえつちらおつちら開始してゐる。そして端緒的な仕事はこの外にもまだまだ實に澤山私達のすぐ目の前にあり、それに最善を傾注することによつて、偉大な歷史の中に生きる悅びを感じてをることを些足ながら附加へてをく。

敗戰國である私たちには、一つのしかもそれこそが偉大な自由がゆるされてゐる。それは國際的にも國內的にも人民の最も嚴肅な批判に堪へ得る精神をもつことがゆるされてゐる。そしてそれは徹底的な反ファシズム、反軍國主義のブルジョア民主革命の道に外ならないのである。（一九四六・一・一五）（筆者は秋田女醫專教授）

千曲川畔にて

片山敏彥

この村に住んで五十日程になる。全く見知らぬ田舍に住んで却つて少年時代の鄕里のことを生き生きと想ひ出すことが多い。二里程離れた村まで初めて知人を訪ねて步いて行く道ばたで小さな野の花を見て急に子供の頃を回想する。初めて通る路が幾十年も忘れてゐた、最も古い記憶を却つて鮮やかに呼び覺ます。すると未知の土地が、大層親しみぶかい氣もちを感じさせる。村のはづれの土藏の白壁にほんのり射してゐる朝の光を見てもやはり幼時の思ひ出がなつかしい薰りのやうに心に湧いたりする。

人間についても亦さうである。初めて知合ひになる素朴な人々の言葉や身ぶりや感情に觸れて、子供のころ鄕里で親しんだ誰彼のことがゆくりなく思ひ出される。「人間」は、何と多樣でまた何と同じ者なのだらう―

朝霧の中を川添ひに步く。秋の輝きは數日前から消えた。季節の炎が眠りにつく。對岸の祝祭的な樹々のきらめきは既に亡びた。言ひつくしがたく美しかつたその光輝の變奏曲はしかしまだ私の心に鳴つてゐる。「神性と自然との共存」といふ言葉を、私は此の坂路を步きながらたびたび思つた。自然の中には、何か超人的な理性のかたちがある。理性であつて同時に超理性であるやうなものがある。それは限りなく優美で限りなく恐ろしい。古代印度人がシヴァと呼びルドラと呼んだものを思はせる。ゲーテがこれを良く識つてゐた。

紅葉は既に錆びて霜に包まれてひつそりしてゐる。淺間の頂きは雪を置いてゐる。蓼科の遙かな柔かな輪廓は朝の日に薔薇いろを帶びてゐる。近くの森から青つぽい煙が一筋まつすぐに登つてゐる。大空が金いろから碧色に變つて行く。大地から朝の無言の讃歌が立ち登るかのやうだ。眼の下に川波が白く幾つも瀬をつくつてゐるのが見える路ばたの切株に腰を下ろして、ポケットから新聞を取り出してひろげる。朝の日が紙に明るく照る。鳥が一羽近くの柿の梢で啼く。

「ブロック」への回想

ジャン・リシャール・ブロックの戲曲が帝劇で上演されてゐることが新聞に出てゐる。ブロックの作が東京で上演されるときが來たのか、何か心がときめく。私は又してもしばらく追憶のとりこになる。千曲川の水が急にセーヌの水につながるかのやうだ。いや事實それはつながつてゐるのだ。一九二九年の初夏の金綠の午後へ私の回想は飛ぶ。あの日私はブロックに招かれて巴里郊外のムードンの家を訪ねた。玄關の入口にミケランジェロの「奴隸」の原作大の石膏像が立つてゐた。濃い朱色の布に幅廣い金いろの縁のついたテーブル掛けのかかつてゐる大きな卓を圍んで數人の人が集まつてゐた。

アンドレ・モーロワの妹である、地味な身なりのブロック夫人、もの靜かな牡牛を思はせる、元首相のエドワール・エリオ、白い長いあごひげの東洋語學者ニューエン、作家シャンソンとゲエノそんな人々が一座してゐた。（ブロック自身は東洋學者シルヴァン・レヴィの甥である。）ブロックはあの日誰かの書いたアメリカ文化についてのかなり長い論文を皆の前で朗讀した。

數ケ月前私は健康を害したために二十年來の學校生活を去つて東京を離れるとき、いつでも手元に持つてゐたいと思ふ本の中にブロックの評論集『謝肉祭は死んだ』を加へた。（本の荷物のため他の必須の調度までを家人に諦めさせなければならなかつた。）この評論集の中で卷頭の「文筆者の祈り」やデュアメル及びポール・フォールの詩についての論文を私は愛讀する。愛讀するといふのは、日常の糧を神のパンとして食ふと言ふ意味である。混亂の中で、理性と愛と人間性とへの信仰を取り戾し今日から明日へ希望を支へて生きるための勇氣と喜びとを汲み取ると言ふ意味である。

「文筆者の祈り」をジャン・リシャールは前の大戰のとき戰場から復員した直後に書いた。彼は身體に幾つかの戰傷をもつてゐた。再び平和の中で、戰爭の苦がい追憶に猶も心を嚙まれながら、再び文筆の仕事を取り上げるとき、彼は「文章を書く」といふ自分の志向を根本的に吟味する。何の爲に書くのか。誰の爲に書くのか。社會意識の本來つよい平和主義的民主主義者であると同時に天才的な藝術家であるジャン・リシャールは、ものを書く動機を根本的に純粹化する自覺する。それが「文筆家の祈りで」に表現されてゐる。」

彼は先づ第一に「人間的な苦惱」に對して祈る―「人間的な苦惱よ、おん身の前に私は謙虛になりたい。無言の無限の苦惱よ。砲彈・爆發・焰・飢餓・寒さ・恐怖・疑惑・分裂・意氣沮喪などの、精神的、肉体的な心痛に面接した苦惱よ。」祈りの對象は、苦惱の次に、「人間的な善意」それから「人間的な友愛心」である。

「人間的な善意よ。おんみは全世界で、慎ましく注意ぶかい多くの奉仕者たちの心を支へつづけた。その人達は、惡臭と泥と冬と貧窮と火事と孤獨と絕望と鼠とを、おみんなに支へられて凌いだ」そして最後に、男達あるひは女達のあひだの眞實な友愛の心に祈る。「友愛」こそ、耐へる力、前進する力、喜び及び信念を持ちつづける力を與へる。

人間的な精神と人間的な苦惱、善意、友愛に對して彼は謙虛になつて祈る。なぜならこれらのものが「一人の人間である事の恥かしさから私を救つてくれた」からである。それらのものが「男に對する、女に對する私の敬意と愛とを依然支持する」からである。

遠い作家に對する私の思ひは、朝の田の面から高く響く子供達の叫びと笑ひとに破られた。刈り取られた稻をこく機械が鈍いうなりを立ててゐる近くの田圃で、農家の子供達が角力を取つて笑ひ叫んでゐる。その笑ひ顏を初冬の朝日が金朱いろに染めてゐる。足下には千曲川の水が白い波を立てつづけてゐる。樹々の黄葉は、役割を終つたものの安らかさを見せて光と大氣との中に散る。（筆者は元一高敎授）

裸木（繪）内田巖

片隅での肉體の解放
永井荷風氏の近作について

野間宏

永井荷風氏の「踊り子」（展望一月號）「浮沈」（中央公論一月號未完）其他近作が文學の理想境として、作品としても創作態度としても、迎へられてゐる。「踊り子」の、肉体の底から降る涙と嘆きに濡れた世界。そして「浮沈」の、この肉体が社會風俗をくぐることに依つて生れる批判の不可思議な笑ひ。荷風の藝術は常にこの二つにより、內と外から支へられる。そして日本の純美と眞實とを、さぐり進む。彼の肉体の皮膚が現實に觸れつづけ觸れつづけしたもののみを信じ、他の如何なるものも排除して行くとき、彼のその持續（文學及人間にとつてはこの持續が大切である）が、一つの光澤のある物體に成る。荷風は文學の物體化の一つの道を示してゐる。彼の暗く輝く肉体が、そのまゝ一個のモラルの存在にもなる所以である。

荷風の涙と嘆きに濡れた肉体が僕を泣かせる。哀れな荷風の肉體よ。そして荷風の唯一つの肉体以外には、肉体を持たぬ哀れな日本文學よ。ネオン・サインの光を受け、薄赤く、また薄青く染められる千代美（踊り子）の顏のやうに、涙といふよりも、荷風の獨自な壁に押りかすんでゐる肉体が、やうやく今生れたのである。

これは文學の理想境ではない。ほんの片隅である。片隅の文學である。そして片隅の風俗である。片隅で解かれ放たれた肉体である。この中に凝結された日本を見る必要がある。この肉体の吐息を聞く必要がある。日本の小說の道は、この次に始まるのである。それは荷風に對する態度で決るとも言ひ得る。荷風に對せしめるべきものは決して中村光夫氏の言ふ如きボードレエルであつてはならない。ボッカチオでなければならない。

このことは重要である。深い笑ひの湧き上る眞の肉体の解放以外に日本文學の今後の道はない。藤村、花袋の、個を解かれそこねた肉体と、荷風の、この社會風俗の片隅で解放された肉体とに對する態度が、今後の新な日本文學を決定すると言へるのである。

農村革命と學生
セツルメント運動の新方向

東大・法　石島泰

終戰以來既に半歲この間に遺憾なく暴露せられた我が指導層の國辱的無能と意識的無意識的無責任とは、外、聯合諸國の我が國民の自治能力そのものにまで及ぶ如き不信を招くと共に、內に於ては全國民を敗戰後の疲弊と貧困との中に放置して國民生活全般を蔽ふ無政府的混沌を惹起せしめたまゝ、今や全面的な壞滅の淵に臨んでゐる。

一方、「解放せられた人民」は、直觀的に解放の息吹きを感じながらも、なほ極度の困窮遁後の麻痺狀態と、「指導」の喪失に因る虛脫とから未だ全面的に脫却しきれぬ低迷段階にある。

現在のこの混沌は、本質的には確かに解放せられた人民による民主々義革命への胎動を孕むものではあるが、同時にそれが旧指導者の無能と無責任とに基く恐るべき混亂と破滅への可能性を包藏するものである事も決して看過し得ない事實である。

この混亂狀態への二つの可能性を併せ內包する混沌の渦中にあつて、吾々は今何を考へ何を爲すべきであらうか。これがが知識階級從つて又吾々學生にとつての現在唯一最大の課題であらう。

封建的軍國主義的資本主義的官僚的指導層は所謂「指令の一旋風毎に壞滅せられつゝあり、その後に生ずる空隙を埋むべき新しき革命勢力の急速な結集が要望せられてゐる。そしてそれに應へるべきものこそ、政治、社會、經濟、文化の全面に亘る徹底的な民主々義革命遂行の主體たるべき全國的民主戰線の結成に他ならない

吾等今何をなすべきかとの課題は、正にこの民主戰線とは何ぞやの究明に在り、民主々義革命は如何にあるべきであり、知識階級はそこに於て如何なる使命を果すべきであるかの問題に歸着する。

こゝに一般的論議は措いて、吾人はその「一つの課題として、日本民主々義革命遂行の基軸としての農村再建設の問題の重要性とその革命的意義を强調し、そこに於て吾人が上記課題の一つの解答の試みとして企圖せる農村セツルメント運動の意圖を問題の焦點として提供せんと欲するものである。

將來のわが產業態勢については多くの問題があるであらう。然し來るべき民主々義革命に於て農民が基礎的な主體となるべく、又新生社會組織に於ける農村の地位と使命との比重が飛躍的に增大すべきである事は何人と雖も之を認めざるを得ない。即ち、革命の最も重要なる一翼は農民によつて遂行せらるべく、農村に於ける革命なくしては日本の民主々義革命の徹底的遂行は不可能なのである。

☆……☆

然らば農村に於ける革命とは何か。即ち綜合的農村再組織、農村合理化の遂行がそれである。

抑も、凡そ民主々義革命を徹底せんが爲には、それは政治・社會・經濟・文化の凡ゆる面を包含するものでなければならずそれは農村における場合にも全く同樣である。然しながらこの事は、農村の社會構造、產業形態の特殊性に基く農村生活自体の有する綜合的性格の故に、特別の顧慮を要求する。即ち、農村における革命は農民をしてその村內における行政、經濟、生產、文化敎育等のすべてを自主的に經營するに至らしむる事を目標とするものであり、又例へば土地問題、人口問題、或ひは農民の生活向上の問題等々、農村における各種特殊問題の解決は、凡そ綜合的農村生活を構成する諸要素の綜合的解決によつてのみ遂行せられ得るのである。農民をして人民主權政治下における人民たるに相應しきものたらしむるには、先づ彼等の生活を向上せしめねばならず、その爲には農業經營が改善せらるべきであり、生活の合理化が圖らるべきであり又それと共に敎育の根本的改革も行はれねばならぬといふ如きである。

さて一部の農村には既にかゝる農村革命への自主的な動きが胎動してゐる、然しその意欲を十分に持つ者と雖も、彼等はその永き桎梏のために非常な制限を被つて居る。即ち科學と技術との缺如がそれである。

こゝに吾々の農民に對する積極的協力の必要性の强調せらるべき所以があり、强力なる一革命勢力としての知識階級一般の果たすべき使命の獨自性、その革命參加への在り方の一指針が求めらるべき根據がある。

かくの如き農村計畫の全面に亘る知識階級の協力が、その遂行に如何ばかり大なる意義をなすかは實に測り知れざるものがあり、農民又現にこれを自覺し要請してゐるのである。

☆……☆

而して、この綜合的農村再組織の全面に亘り、正に綜合大學の實を生かしつゝ、全學部學生の緊密なる提携の下に、協力する者によつて、革命遂行への知識階級の使命を荷ふと同時に、吾々自らの學問の綜合的即物的深化研鑽の機會を積極的に求めんとするのが吾人の企圖する東大農村セツルメントの主旨である。

虛脫―それは現在の學生を表現するに最も適した言葉とされる。青年、知識階級といふ二重の革命推進力たるの條件（而して義務―）を有しながら、學生は何をして居るのであらうか。

吾々は、自己の知性と良心とに燃へて、吾々を無氣力に低迷させ、虛脫に甘んぜしむるものの實體を見究め、一切の紅夢を粉碎せねばならない。

學生よ、人民の力を向け、と云はれる。敗戰の祖國の救濟と再建のためにセツルメントを叫切れと叫ばれる。

吾々の內面的革新は、社會革命遂行の推進の中に於てのみ可能であり、革命の徹底的遂行亦たかゝつて吾々の誠實の成否にありと云ふも過言ではあるまい。

こゝに敢て所在の問題を提起し、廣く學生有志の熱烈協力を切望せんとする所以である。

二村にセツル行く

【東大】勤勞階級の生活の合理化、文化の向上を圖り、これに政治の援助を與へ、之と共に種々の綜合研究を行ひつゝ自分の學內に[illegible]旧來東大各學部有志學生の手で再興を企てられてゐた東大セツルメントはこの程具体的な運營段階に入り、二農村を對象とする具体的計畫を決定近く實施に移ることになつた。

（一）埼玉縣比企郡小見野村では、最近結成された農民組合と結んで、その擴充助長を通じて農村經濟の民主化、農民の生活安定の條件を確立することを眼ざし、無醫村に近い同村で無急的に實費診療を開始し、漸次恒久的な診療所を設ける他、同村の科學的な實態調査、法律相談所を作る豫定

（二）神奈川縣西生田村細山は殆ど全村自作農で生活が略安定してゐるので文化運動を中心に活動を續けることにし、農繁期の託兒所を設け兒童敎育に當る、獅々村共通の課題として農村工業化をめざしてゐるのは注目される

☆…勝博士を學長に公選―京都府立醫

京都府立醫大では越智學長辭任にともなふ後任推薦につき一月十七日教授會を開催滿場一致をもつて同學附屬病院整形外科主任勝義孝博士を新學長に公選した

☆…社會教育講座生る―九大

九大では西日本新聞社と提携して大學民主化の第一步として講座を公開、去月十日から三日間西日本新聞社で開催、題目及び講師は次の如し

▽當面の勞働問題―菊池勇夫教授

▽憲法改正について―河村又介教授

▽日本經濟再建の原理―波多野鼎教授

社告

從來人手不足、資材難等の爲め直接購讀者の御申込を制限して參りましたが今度漸く整備がつきましたので御申込を御受けする樣になりました、至急御申込頂きたいと思ひます、なほ學校團体等ではなるべく團体御申込頂ければ幸と存じます、これまで永らく御迷惑をおかけいたして參りましたことを茲に深く御詫び申し上げます

×……×

先號一月十一日號で冬期休暇のため一月廿一日、二月一日附兩號を休刊いたすべく社告しましたが、急激なる今日の社會情勢に應じ一月廿一日附だけを休刊いたし本號から平常通り發行致します、右御諒承下さい

財團法人　大學新聞社

知識大衆の新雜誌
月刊 りべらる
創刊號發賣中　定價一円二十錢　送料十錢
主要目次
自由に就て……武者小路實篤
悲劇の誕生……町田梓樓
戀愛の復活……龜井勝一郎
獵房記……西村伊作
映畫の復興……筈見恒夫
接吻の美學……國部みどり
小說 男ぎらひ…小島政二郎
小說 口笛（翻譯）モーパッサン
買出し殺人事件…八木愛
待たるゝアメリカ映畫（口繪）
東京都本郷區元町一
太虛堂書房
振替東京一九四九〇二番

月刊 自由懇話會
（自由懇話會機關誌）創刊號
日本共產黨の憲法草案（志賀義雄）我國經濟統制の過去・現在・將來（帆足計）民主主義は何から（江森盛彌）獄死の悲慘（布施辰治）
◇新刊書◇
武者小路實篤著　桃源にて（價一・五〇送二〇）
武者小路實篤著　新日本の建設（價三・〇〇送三〇）
菊池寬著　最後の進歩黨（價一・五〇送二〇）
菊池寬著　自由放言（價三・〇〇送二〇）
正宗敦夫校訂　新古今和歌集（價六・九〇送三〇）
正宗敦夫校訂　東平安朝日記集（價三・八〇送三〇）
東京都神田區西神田二ノ四
建設社發行

新潮　十二月號
▼小說について……生島遼一
▼天高く（隨筆）……渡邊一夫
▼高原の家　片山敏彥
▼閑古鳥　石塚友二
創作　秋風の池……外村繁
自在人……北畠八穗
病間錄……島木健作
▼藝術百一話……アラン
▼世界文化情報……短波通信
▼回想の藤村先生……菊池重三郎
定價壹圓五拾錢
新潮社

原稿募集
○題目（體驗と思索）四千字以內　〆切二月廿日
但、學生に限る。所屬學校及住所氏名明記の事
宛名　「新潮」編輯部

大學入試準備
數物演習會々員募集
◎大學教官等三名擔任指導、高校工專及軍學校、新進女子學生等ノ入會ヲ歡迎
（詳細ハ規則書參照）

人民評論　二月號發賣中
定價二円十錢　一年廿四円
恒久平和は可能か（座談會）
細川嘉六・堀江邑一・風早八十二・松本愼一・古在由重
主張・財政改革の道…農民の解放…企業の自由か出版の自由か
インフレーション克服の方向
現下の土地問題
現代道義論
人間關係を分析・再現せよ
中國內戰の歷史的背景
愛情は降る星の如く
村に住む記
世界文化ニュース・人民の聲
東京神田西神田二
伊藤書店
振替東京一八一七七

展望　二月號
筑摩書房
振替東京一六九七六八

新綜合雜誌
文明　創刊號
愈々發賣　定價三圓　表紙　內田巖
句…石塚友二
失業問題の所在……大河內一男
新民主主義……風早八十二
中國小說 山旅……千田九一
政治的自由……布施辰治
軍國下の日本映畫……津村秀夫
新文學の基盤……瀧川[illegible]
文學者の自由に就て……井上友一郎
小說 卷紙と暗殺…丹羽文雄
文明社
東京都中野區本町通六丁目一四番地
電話中野（38）二八三九

紅露語學研究所所長　紅露文平指導
言語理論の最高權威紅露教授が創案せられた最も科學的な教授法
高級英語講座　新學期開講　四十四円
初級ドイツ語講座　新學期開講　三十六円
初級佛蘭西語講座　六月一日開講　三十六円
入會資格…高校・高專・大學生又は同程度學力の所有者
英獨佛語通信講座　全四ケ月完成
（會則內容見本送呈）
東京都杉並區[illegible]六ノ三三　紅露外語講座

英語講座
第一回配本　杉山・ハリス共著　日米會話
[illegible]
米國學生々活（新聞・文學・スポーツ其他）
東京都世田谷區北澤四丁目
實用英語學會出版部